

(様式第 10)

名大医総第117号
平成29年10月3日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人名古屋大学
総長 松尾 清一(印)

名古屋大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒464-8601 名古屋市千種区不老町
氏 名	国立大学法人 名古屋大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

名古屋大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地	電話(052)741-2111
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
内分泌内科、代謝内科：糖尿病・内分泌内科にて医療を提供している。			
感染症内科：内科全般にて医療を提供している。			
アレルギー疾患内科またはアレルギー科：内科全般と小児科にて医療を提供している。			
リウマチ科：整形外科にて医療を提供している。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	
乳腺外科、内分泌外科：乳腺・内分泌外科にて医療を提供している。 心臓血管外科：心臓外科、血管外科にて医療を提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 児童精神科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4 糖尿病・内分泌内科
5 老年内科	6 移植外科	7 形成外科	8 乳腺・内分泌外科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50 床	0 床	0 床	0 床	985 床	1035 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	367人	321人	621.5人	看護補助者	54人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	25人	32.0人	理学療法士	29人	臨床検査技師	81人
薬剤師	82人	10人	91.4人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	12人	その他	0人
助産師	34人	0人	34人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	3人
看護師	1072人	44人	1103.9人	臨床工学士	33人	医療社会事業従事者	12人
准看護師	1人	0人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	91人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	292人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	67人	その他の職員	7人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	12人
外科専門医	98人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	20人
小児科専門医	39人	脳神経外科専門医	22人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	43人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	26人	救急科専門医	5人
		合 計	367人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石黒 直樹) 任命年月日 平成25年4月1日

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院材料部長事務取扱を務め、医療機器安全管理責任者であった。
平成22年4月1日から平成25年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院材料部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	796.2人	8.9人	805.2人
1日当たり平均外来患者数	2,275.3人	84.5人	2,359.8人
1日当たり平均調剤数	683.7剤		
必要医師数	214人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	27人		
必要(准)看護師数	482人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,529 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	44床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 291 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	27床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 54 m ² [共用室の場合] 共用する室名		薬歴管理室、高度医療薬剤支援室			
化学検査室	559 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、免疫自動分析装置			
細菌検査室	128 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) バクテアラート3D、マイクロスキャン			
病理検査室	341 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査装置クリオスタット、自動脱水包埋装置			
病理解剖室	66 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、クリーンベンチ、臓器撮影台			
研究室	142 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 次世代シーケンサー、質量分析装置			
講義室	55 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	35人
図書室	41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	8,400冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	70.0 %	逆紹介率	53.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数		18,056 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,709 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,146 人
	D：初診の患者の数		27,433 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会 会長	○	愛知県医師会 長を務めており、 医療安全に精通し ているため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
三島 信彦	名古屋通信病 院 病院長		名古屋通信病 院長を務めており、 医療安全に精通し ているため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
長谷川 ふ き子	成田・長谷川法 律事務所 弁 護士		医療安全管理を 得意とする弁 護士であり、法律に 関する高い識見 を有しているた め。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
広瀬 茂	全国健康保険 協会 愛知支 部 支部長		全国健康保険協 会愛知支部長を 務めており、医療 を受ける者とし て、医療に係る高 い見識を有して いるため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2
市橋 克哉	名古屋大学 理事		総長が指名する 理事	<input checked="" type="radio"/> 有 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 本院ホームページ上に公表。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 特に無し		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	96	56	ベーチェット病	74
2	筋萎縮性側索硬化症	77	57	特発性拡張型心筋症	72
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	57
6	パーキンソン病	282	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	84
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	2	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	113	66	IgA腎症	32
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	12
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	95	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	71	69	後縦靱帯骨化症	81
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	110
17	多系統萎縮症	33	72	下垂体性ADH分泌異常症	29
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	79	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	11
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	8
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	95	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	63
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	72
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	15	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	115
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	16
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	39
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	45
34	神経線維腫症	58	89	リンパ管筋腫症	9
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	56
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	7
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	43
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	17
40	高安動脈炎	39	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	310
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	437
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	36	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	212	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	89	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	111	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	13	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	15	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	1
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	5
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	1
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
一般病棟 7対1入院基本料	・ 退院支援加算
精神病棟10対1入院基本料	・ 精神疾患診療体制加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 特定集中治療室管理料1
・ 急性期看護補助体制加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 看護職員夜間配置加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 療養環境加算	・ 小児入院医療管理料4
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ 無菌治療室管理加算1	・ 歯科外来診療環境体制加算
・ 無菌治療室管理加算2	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 精神科救急搬送患者地域連携受入加算	・
・ 総合評価加算	・
・ 呼吸ケアチーム加算	・
・ 病棟薬剤業務実施加算1	・
・ 病棟薬剤業務実施加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料 (人工内耳埋込術の届出により可)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 糖尿病合併症管理料	・ 神経学的検査
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 補聴器適合検査
・ がん患者指導管理料	・ 内服・点滴誘発試験
・ 外来緩和ケア管理料	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ 移植後患者指導管理料	・ 画像診断管理加算2
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ ポジトロン断層撮影
・ 院内トリアージ実施料	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ ニコチン依存症指導管理料	・ CT撮影及びMRI撮影
・ がん治療連携計画策定料	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 心臓MRI撮影加算
・ 薬剤管理指導料	・ 乳房MRI撮影加算
・ 医療機器安全管理料1	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 医療機器安全管理料2	・ 外来化学療法加算1
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 無菌製剤処理料
・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 遺伝学的検査	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)	・ がん患者リハビリテーション
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ 児童思春期精神科専門管理加算
・ 国際標準検査管理加算	・ 認知療法・認知行動療法
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 精神作業療法
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 医療保護入院管理等診療料
・ 胎児心エコー法	・ CAD/CAM冠
・ ヘッドアップティルト試験	・ 同種死体肝移植術

・ 歯科技工加算	・ 腹腔鏡下睪体尾部腫瘍切除術
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ 骨移植術(軟骨移植術含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 同種死体腎移植術
・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 生体腎移植術
・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 膀胱水圧拡張術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 網膜再建術	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・ 輸血管管理料 I
・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・ 貯血式自己血輸血管管理体制加算
・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 経カテーテル大動脈弁置換術	・ 麻酔管理料(I)
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 麻酔管理料(II)
・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・ 放射線治療専任加算
・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・ 外来放射線治療加算
・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・ 1回線量増加加算
・ 補助人工心臓	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・ 定位放射線治療
・ 体外衝撃波胆石破碎術	・ 病理診断管理加算
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料

• 生体部分肝移植術	• 腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術
• 同種心移植術	• 輸血適正使用加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画(頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を伴う疾患に係るものに限る。)	・
・ 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・ 腹腔鏡下前立腺摘除術	・
・ 膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	・
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ インプラント義歯	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	<p>脳神経外科・小児科・神経内科: 神経生理機能検査部門 月1回</p> <p>血液内科: 検体検査部門 月1回, 解剖・病理室 月1回</p>
剖 検 の 状 況	<p>剖検症例数 19 例 / 剖検率 4.5 %</p>

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
ブラズマ医療科学の臨床応用論的学術基盤の構築と体系化	吉川 史隆	産科婦人科	34,840,000	補委	日本学術振興会
白質・ミエリン障害を病因とする統合失調症サブグループの同定	尾崎 紀夫	精神科	13,650,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と認知症制御	祖父江 元	神経内科	32,760,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と神経回路破綻の可視化	祖父江 元	神経内科	56,620,000	補委	日本学術振興会
胸壁並行断面CT(オニオンスライスCT)による間質性肺炎のコンピュータ支援診断	岩野 信吾	放射線科	2,340,000	補委	日本学術振興会
マイクロCT画像による組織学的診断技術の確立	中村 彰太	呼吸器外科	590,000	補委	日本学術振興会
グリア細胞におけるMHCクラスI分子の過剰発現とマイクロエンドフェノタイプ	山田 清文	薬剤部	3,510,000	補委	日本学術振興会
胎生期のサブプレートニューロン障害が神経発達障害に及ぼす効果の解析	城所 博之	小児科	2,730,000	補委	日本学術振興会
ベトナムにおける妊産婦管理および婦人科rare tumorの学際的研究	吉川 史隆	産科婦人科	11,180,000	補委	日本学術振興会
カテプシンK-Notch signal 経路とサルコペニアに関する研究	葛谷 雅文	老年内科	5,200,000	補委	日本学術振興会
ストレス性血管病におけるGLP1/DDP4の新しい作用メカニズム解明と治療応用	成 憲武	老年内科	7,150,000	補委	日本学術振興会
表皮における脂質メディエーターの役割の解明と角化異常症の新規治療戦略への展開	秋山 真志	皮膚病態学	5,070,000	補委	日本学術振興会
幹細胞由来ペプチドを用いた革新的大動脈瘤治療法の開発	碓氷 章彦	心臓外科	3,770,000	補委	日本学術振興会
時空的観察による卵胞発育制御機構の解明と卵胞発育因子の同定	岩瀬 明	産科婦人科	2,860,000	補委	日本学術振興会
剥離網膜の包括的病態解析と新規細胞保護治療開発	寺崎 浩子	眼科	5,330,000	補委	日本学術振興会
腎領域の臨床研究を促進する新規腎アウトカム指標を決定する国際共同研究	安田 宜成	CKD寄附講座	3,900,000	補委	日本学術振興会
体内で分解し残存異物とならない新規マグネシウムデバイス開発と各種疾患治療への応用	内田 広夫	小児外科	7,150,000	補委	日本学術振興会
重症心不全における心筋配向変化が心機能増悪をもたらす機序の解明	秋田 利明	心臓外科	8,580,000	補委	日本学術振興会
スーパーエンハンサーによる脳腫瘍の発生と悪性化のクロマチンダイナミクスの解明	夏目 敦至	脳神経外科	6,240,000	補委	日本学術振興会
Drug repositioning 戦略による整形外科領域の新規医療開発	石黒 直樹	整形外科	6,370,000	補委	日本学術振興会
婦人科がんの個別化腫瘍免疫療法を目指した腫瘍浸潤リンパ球の基礎的研究	吉川 史隆	産科婦人科	6,110,000	補委	日本学術振興会
過酷な培養環境に应答した細胞由来因子群による骨再生法	日比 英晴	歯科口腔外科	12,480,000	補委	日本学術振興会
アジア太平洋地域における膜性腎症の診断・治療・疫学に関する調査研究	丸山 彰一	腎臓内科	7,930,000	補委	日本学術振興会
新たな血管障害バイオマーカーの基礎的研究ならびに創薬を含めた臨床応用に関して	葛谷 雅文	老年科学	500,000	補委	日本学術振興会
心腎連関の病態の解明一尿毒素の新しいシグナル伝達機構の探求	MAIMAITI Yisir eyili	循環器内科学	800,000	補委	日本学術振興会

小児急性脳症の網羅的メタボローム・マイクロRNA解析を用いたバイオマーカー探索	鳥居 ゆか	小児科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
先天性魚鱗癬の新規病因遺伝子同定と抗サイトカイン製剤による発症制御療法への挑戦	武市 拓也	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Margin imprint法による外科的切除断端の分子生物学的解析	林 真路	消化器外科二	2,010,000	補委	日本学術振興会
早産における分子状水素の予防効果と母体長期投与の胎仔への影響	中野 知子	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
免疫抑制受容体による抗原特異的T細胞の免疫応答制御の解明と細胞療法への応用	後藤 辰徳	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
胎児脳障害に対する分子状水素の予防効果に関する研究	今井 健史	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
進行性腎細胞癌に対するアキシチニブの個別化治療を目指した検討	加藤 博史	薬剤部	310,000	補委	日本学術振興会
新規間質性肺炎治療薬ニンテダニブの血中濃度測定法の確立と投薬支援	市川 和哉	薬剤部	570,000	補委	日本学術振興会
神経分化関連因子を誘導する神経精神疾患治療薬物の選定及び作用メカニズムの解明	北川 佳奈子	薬剤部	570,000	補委	日本学術振興会
体組成成分を考慮した抗がん剤投与量補正式の確立に向けて	藤野 泰孝	薬剤部	300,000	補委	日本学術振興会
小児におけるテイコブラニン薬物動態解析	宮川 泰宏	薬剤部	570,000	補委	日本学術振興会
寛解期検体を用いた、急性骨髄性白血病前駆クローンの検出およびその臨床的意義の解析	服部 光	検査部	500,000	補委	日本学術振興会
電気刺激装置を用いた筋力強化練習が寛骨臼回転骨切り術後筋力に及ぼす効果の検証	林 和寛	リハビリテーション部	510,000	補委	日本学術振興会
新規セリンスレオニンキナーゼ阻害剤による胆管癌・膵癌治療法の開発	椰野 正人	腫瘍外科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
意思決定の神経回路・分子機構の解明と創薬研究への応用	山田 清文	薬剤部	5,200,000	補委	日本学術振興会
自己脂肪組織由来幹細胞を用いた心血管系再生医療の総合的開発研究	室原 豊明	循環器内科	4,810,000	補委	日本学術振興会
新たに同定したアディポサイトカインによる心血管制御機構の解明	大内 乗有	分子循環(寄附講座)	4,420,000	補委	日本学術振興会
アノキス抵抗性に基づいた網羅的な肺癌ドライバークローム遺伝子特定の研究	佐藤 光夫	呼吸器内科	4,030,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患における神経・筋システム変性の分子病態解明と治療法開発	勝野 雅央	神経内科	5,330,000	補委	日本学術振興会
胎児発育不全児の中樞神経障害に対する幹細胞治療の開発	早川 昌弘	総合周産期母子医療センター	3,640,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーによる膵癌早期診断マーカー同定と低侵襲十二指腸液検査法への応用	小寺 泰弘	消化器外科二	4,160,000	補委	日本学術振興会
デスマイド腫瘍の変異解析と新規治療アルゴリズムの確立にむけた研究	西田 佳弘	整形外科	3,510,000	補委	日本学術振興会
不治の病である運動ニューロン疾患に対するiPS細胞による新規治療法の開発	平田 仁	手の外科	3,640,000	補委	日本学術振興会
菌髄幹細胞由来の新規抗炎症性マクロファージ誘導因子を用いた末梢神経再生療法の開発	山本 朗仁	歯科口腔外科	3,900,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞による大動脈瘤治療の臨床応用を目指した研究	緒方 藍歌	心臓外科	3,250,000	補委	日本学術振興会
糖尿病合併症の発症を予防する食品因子の探索とその作用機序解明	伊藤 友子	精神科	650,000	補委	日本学術振興会
口腔内灼熱症候群に対するデュロキセチンの疼痛緩和効果に関する包括的研究	木村 宏之	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
アルコール性肝不全に対する肝移植治療における新しい心理社会的適応評価法の開発	大西 康晴	移植外科	1,430,000	補委	日本学術振興会

青年期うつ病に対する治療ガイドラインの確立に向けた研究	鈴木 太	精神科	546,000	補委	日本学術振興会
心臓微小低酸素領域における遺伝子発現・血管新生の3次元解析を応用した治療法の開発	小林 光一	循環器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
多剤薬物相互作用特性の解析による全身麻酔作用機序の解明	足立 裕史	麻酔・蘇生医学	110,747	補委	日本学術振興会
ストレス感受性転写因子NPAS4の機能破綻による精神疾患発症機構の解析	日比 陽子	薬剤部	1,430,000	補委	日本学術振興会
内視鏡手術シミュレーション訓練の新しい統合的基本タスク	田中 千恵	消化器外科二	1,950,000	補委	日本学術振興会
高齢者終末期ケアワークショップ・ファシリテーター養成プログラムの開発	植村 和正	総合医学教育センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
在宅ケアマネジャーのための終末期ケアマネジメント支援システムの開発と効果の検証	平川 仁尚	国際保健医療学・公衆衛生学	1,430,000	補委	日本学術振興会
演劇ワークショップを用いた糖尿病医療者教育プログラムの開発普及と有効性の検証	岡崎 研太郎	総合診療科	1,950,000	補委	日本学術振興会
医薬看護学生に対する継続的多職種連携教育ツール(iPED)の開発と教育効果の検証	安井 浩樹	地域医療教育学寄附講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
SPパフォーマンス評価票の開発とSPの質の実態調査	阿部 恵子	看護キャリア支援室	1,430,000	補委	日本学術振興会
がん薬物療法におけるサルコペニアの臨床的意義	安藤 雄一	化学療法部	1,170,000	補委	日本学術振興会
介護支援専門員への医療系ケアマネジメント教育は多職種連携改善をもたらすか	広瀬 貴久	地域包括ケアシステム学寄附講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
医療の質改善を目指した電子データを利用した標準的プロセス解析手法の開発	白鳥 義宗	メディカルITセンター	1,040,000	補委	日本学術振興会
消化器癌腹膜播種の遺伝子解析研究	前田 修	化学療法部	1,300,000	補委	日本学術振興会
NASHにおけるアミノ酸代謝と肝脂肪改善及び進展抑制のメカニズム	本多 隆	消化器内科	780,000	補委	日本学術振興会
血中バイオマーカーによる肺高血圧症肺血管床閉塞消失予測方法の確立	近藤 隆久	肺高血圧先端医療学寄附講座	130,000	補委	日本学術振興会
Rho関連キナーゼが心不全病態を修飾する新規分子機構の解明と治療薬開発	竹藤 幹人	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
マウス単核心筋細胞に注目した心筋再生メカニズム解明への試み	海野 一雅	循環器内科	650,000	補委	日本学術振興会
新規アディポサイトカイン「オメンチン」を標的とした血管病制御機構の解明	柴田 玲	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
CD147による腎エネルギー代謝機構の解明と臓器相関に対する治療法の探究	小杉 智規	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病における心腎連関を早期診断・モニタリングする新規バイオマーカーの確立	鈴木 康弘	腎不全治療学寄附講座	650,000	補委	日本学術振興会
アンチセンス核酸を用いた運動ニューロン疾患の病態、治療研究	佐橋 健太郎	神経内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
dynactin-1ノックアウトマウスを用いた孤発性ALSの病態解明と治療法開発	河合 香里	神経内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
B7-2 KO NODマウスによる脱髄に付随する軸索障害機序の解明	川頭 祐一	神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
マウス疾患特異的iPS細胞を用いた遺伝性中枢性尿崩症in vitro実験系の確立	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
極低出生体重児に認める発達障害に対する包括的脳画像解析	城所 博之	小児科	910,000	補委	日本学術振興会
若年性特発性関節炎における新規バイオマーカーとしてのmiRNAの同定	川田 潤一	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ダウン症関連急性巨核芽球性白血病の発がんメカニズムの解明	濱 麻人	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会

造血幹細胞移植後EBV関連リンパ増殖症に対するEBV特異的CTL療法の最適化	高橋 義行	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
低分子代謝物質の網羅的解析を応用した急性ウイルス性脳症の新規バイオマーカーの探索	伊藤 嘉規	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周産期脳障害に対する脱分化脂肪細胞を用いた新規治療開発	佐藤 義朗	総合周産期母子医療センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎におけるDNAミスマッチ修復酵素に対する自己免疫応答の解明	室 慶直	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
炎症性皮膚疾患ケラチノサイトにおけるエピゲノミクス異常の動的変化の解析	小川 靖	皮膚科	1,040,000	補委	日本学術振興会
網羅的エピゲノム解析を用いた産後うつ病の病態に関わる生物学的因子の同定	中村 由嘉子	精神科	780,000	補委	日本学術振興会
遺伝情報を背景にした統合失調症の脳組織病理学検討	入谷 修司	精神科	1,040,000	補委	日本学術振興会
発達障害における発語と身体運動の関係	東島 恵美子	精神科	1,430,000	補委	日本学術振興会
てんかん発症部位および重傷度判別に用いるグルタミン酸PETイメージング剤の開発	山口 博司	新学術領域	1,430,000	補委	日本学術振興会
非正規分布拡散画像(拡散尖度画像)によるアルツハイマー病の病期診断および予後予測	田岡 俊昭	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
加算心電図を用いた微細な放射線心筋障害の探索研究	岡田 徹	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
がんの発症や進展へ影響を及ぼす炎症性分子インフラマソームの検討	杉本 博行	消化器外科二	2,080,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁置換術後のマイクロシミュレーションモデルの構築と至適な人工弁選択の研究	阿部 知伸	心臓外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞部に心筋再生を誘導し心機能を改善させる新しい張力反応性弾力生体材料の開発	藤本 和朗	心臓外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
次世代の皮質下機能的脳外科手術の確立を目指したコネクタームマップの開発	前澤 聡	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
ケラタン硫酸分解による脊髄損傷治療-臨床に直結した新規治療法の開発-	今釜 史郎	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸ネットワークと破骨細胞制御による骨転移治療の確立	浦川 浩	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肝関節鏡手術におけるAugmented Realityシミュレーションの開発	山本 美知郎	手の外科	910,000	補委	日本学術振興会
関節リウマチに対する抗RANKL抗体と炎症性サイトカイン阻害薬併用療法の治療効果	小嶋 俊久	整形外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
早産児の後遺症発症の減少を目指して~分子状水素を用いた新規治療法の開発~	小谷 友美	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会
経時的連続観察を利用した卵巣体外培養系の確立と応用	後藤 真紀	産科婦人科	1,040,000	補委	日本学術振興会
絨毛性腫瘍に特異的なhCG糖鎖構造をベースにした新規腫瘍マーカーの確立	山本 英子	産科婦人科	1,950,000	補委	日本学術振興会
320列面検出型CTによる咽頭癌治療後の嚥下動態の解明	藤本 保志	耳鼻いんこう科	1,040,000	補委	日本学術振興会
網膜疾患では網脈絡膜循の変化はいつ、どのようにして起こるか?	岩瀬 剛	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規機能性ペプチド含有担体と臍帯由来幹細胞を用いた骨・軟骨再生に関する基礎的研究	蛭沢 克己	形成外科	910,000	補委	日本学術振興会
オッセオインテグレーションを形成するタンパク質の解析	土屋 周平	歯科口腔外科	910,000	補委	日本学術振興会
高齢者悪性胸膜中皮腫に対する治療選択の最適化をめざした基盤構築	森瀬 昌宏	呼吸器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
がん悪液質におけるサルコペニア発症機序の解明	下方 智也	ガンプロ	1,300,000	補委	日本学術振興会

インスリン抵抗性に着目したアルツハイマー病バイオマーカーの縦断的研究	梅垣 宏行	老年内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
運動による認知機能低下予防効果の機序の解明	柳川 まどか	老年内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
急性肝不全モデル動物における歯髄由来幹細胞の効果-肝臓における炎症と再生の相関	石上 雅敏	消化器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
心電図周波数解析と心内ローターマッピングを用いた新しい心房細動評価と治療法の開発	因田 恭也	循環器内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
治療標的検索のための肺がん細胞におけるメカニカルストレスの解析	近藤 征史	呼吸器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病・高血圧におけるフルクトース代謝の役割と分子機構の解明	石本 卓嗣	腎臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
卵膜由来間葉系幹細胞を用いた腎疾患治療	勝野 敬之	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
日本における抗PLA2R抗体関連膜性腎症の実態と病態機序の解明	秋山 真一	腎臓内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
腎疾患領域におけるリンパ管新生の観点からの病態解明とその治療戦略	伊藤 恭彦	腎不全治療学寄附講座(腎臓内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
腹膜透析関連腹膜炎、特に真菌感染の腹膜に与える影響と、補体活性制御系の関与	水野 正司	腎不全治療学寄附講座(腎臓内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
慢性腎不全患者の予後を規定する炎症をターゲットとする新しい治療戦略の確立	坂田 史子	腎臓内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ALS/FTLDの高次機能障害におけるadult neurogenesisの役割	石垣 診祐	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
レジストリ構築による球脊髄性筋萎縮症の早期バイオマーカー開発	橋詰 淳	神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
NIID(エオジン好性核内封入体病)の病態の解明および原因遺伝子探索	曾根 淳	難知性神経疾患寄附講座(神経内科)	1,430,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食誘発性の視床下部炎症におけるプロテインフォスファターゼ1Bの作用解析	坂野 僚一	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
エネルギーバランスにおける報酬系GABAシステムの機能解析	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
患者由来腫瘍細胞を用いたスクリーニングによるPh陽性ALL治療薬の探索	早川 文彦	血液内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
免疫抑制的腫瘍微小環境を打破する遺伝子導入Tリンパ球の開発とその機能解析	寺倉 精太郎	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
組織浸潤アロT細胞の標的抗原とクローンタイプに着目したGVHDバイオマーカーの開発	村田 誠	血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
炎症性樹状細胞と好塩基球を基軸とした気管支喘息発症・増悪メカニズムの解析	若原 恵子	呼吸器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児再生不良性貧血の免疫抑制療法反応性を予測するバイオマーカーの開発	村松 秀城	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫に対するIGF受容体を標的とした新規キメラ抗原受容体T細胞療法の開発	西尾 信博	先端医療・臨床研究支援センター	1,820,000	補委	日本学術振興会
慢性肺疾患合併肺高血圧症に対する肺胞増殖を介した新規治療法の開発	加藤 太一	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた統合失調症多発家系の遺伝子解析と病因・病態解明	Aleksic Branko	国際教育(精神科)	520,000	補委	日本学術振興会
老年期精神障害における神経画像の背景病理に関する臨床神経病理学的検討	藤城 弘樹	睡眠医学寄附講座(精神科)	910,000	補委	日本学術振興会
スペクトラルマンモグラフィとMRIによる乳癌の宿主・腫瘍側リスクの定量化と層別化	佐竹 弘子	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
大規模3次元CT画像データベースを利用した胸部疾患コンピュータ支援診断の開発	岩野 信吾	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会

放射線抵抗性表在癌に対する半導体レーザーによる温熱装置の開発とその臨床応用	久保田 誠司	放射線科	1,170,000	補委	日本学術振興会
グルカゴン遺伝子ノックアウトマウスを用いた膵内分泌腫瘍に対する治療・予防法の開発	菊森 豊根	乳腺・内分泌外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
術後感染性合併症に対するRAGE活性化機序の解明と治療法の開発	深谷 昌秀	消化器外科一	1,300,000	補委	日本学術振興会
クローン病術後抗TNF α 抗体維持療法の有効性と安全性に関する検討	中山 吾郎	消化器外科二	1,170,000	補委	日本学術振興会
EGFR阻害剤による肝障害進展抑制の機序の解明とその臨床応用	藤井 努	消化器外科二	1,560,000	補委	日本学術振興会
慢性大動脈解離entry閉鎖を目的とした生体適合性形状記憶ポリマーの開発	六鹿 雅登	心臓外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
ClopidogrelおよびPrasugrelの自家静脈グラフト内膜肥厚抑制効果	児玉 章朗	血管外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脊髄再生の足場となる新規自己集合体ペプチドゲル有効性の検証	安藤 圭	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳科学を応用した疼痛関連SNP解析技術の確立	岩月 克之	手の外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
神経筋接合部の変性制御により神経損傷後の運動機能回復を促進する薬理学的アプローチ	栗本 秀	ニプロ協同講座 (手の外科)	1,690,000	補委	日本学術振興会
がんの骨・肺転移におけるCathepsin Kの役割の解明	小澤 英史	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
メクロジンによるFGFR3シグナル抑制効果の動物モデルにおける検討	松下 雅樹	整形外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
脳死関連肺障害の病態解明と予防・治療法の開発ー特にNPYとVEGFと関連して	西脇 公俊	麻酔科	1,560,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌局所免疫解析に基づくテラーメイド免疫療法の開発	柴田 清住	産科婦人科	1,690,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来液性バラクライン因子による骨再生医療の開発	片桐 渉	歯科口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Instructional designに基づく新しい内視鏡手術教育システム	藤原 道隆	クリニカルシュミレーションセンター	1,560,000	補委	日本学術振興会
診療の質評価と共感への認識探索を通じた医師の共感に関する自己評価再検討	高橋 徳幸	総合診療科	1,950,000	補委	日本学術振興会
高齢者の運動器疾患と酸化ストレス・栄養摂取に関する疫学的研究	関 泰輔	整形外科	2,990,000	補委	日本学術振興会
高齢者総合評価(CGA)の地域展開と地域在住高齢者の療養状況に関する研究	大西 丈二	老年内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト内視鏡生検検体を用いた腸炎上皮傷害に関わるバイオマーカーの探索的研究	中村 正直	消化器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
心筋疾患におけるKlotho-FGF系の病態生理学的意義の解明	奥村 貴裕	循環器内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
心臓線維化における老化制御因子WRNタンパクの役割	坂東 泰子(暮石 泰子)	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
基質硬度に起因する肺および気道リモデリング制御機構と細胞基質力学検知機構の解明	伊藤 理	呼吸器内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
ExosomesとマイクロRNAを用いた、安全性の高いオーダーメイド治療の開発	加藤 規利	腎臓内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
白血球接着因子とその調節分子の糸球体腎炎における機能解析と細胞移入治療への応用	坪井 直毅	腎臓内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
唾液メラトニン測定によるパーキンソン病における睡眠障害のバイオマーカー開発	中村 友彦	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
多系統萎縮症の正確な病期診断法の開発	伊藤 瑞規	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
クラスリン依存性エンドサイトーシス関連分子CALMを標的とした白血病治療の可能性	石川 裕一	血液内科	1,690,000	補委	日本学術振興会

社会的刺激への反射的応答に着目した自閉スペクトラム症の生物学的病態解明	岡田 俊	精神科	2,860,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌患者の社会適応状態の調査及び健康関連QOLを障害するメカニズムの解明	足立 康則	精神科	1,170,000	補委	日本学術振興会
Dual Source CTを用いた進行直腸癌の術前マネージメントシステムの確立	石垣 聡子	放射線科	2,860,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳老廃物排泄機構の時空間的低侵襲画像評価法の開発	川井 恒	放射線科	1,560,000	補委	日本学術振興会
小児から老人まで、機能的脳MRIと生理学的指標とから見た発達・加齢	中根 俊樹	放射線科	1,820,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞に対する新規治療戦略	角田 伸行	乳腺・内分泌外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
TLR7を標的とした新規癌治療法における作用機序の解明	上原 圭介	消化器外科一	1,820,000	補委	日本学術振興会
システインの肝障害抑制に関する作用機序の解明	横山 幸浩	消化器外科一	2,080,000	補委	日本学術振興会
Pre-metastatic nicheを制御する新規転移抑制治療法の開発	水野 隆史	消化器外科一	2,470,000	補委	日本学術振興会
血中エクソソームを利用した膵癌タイプ別分類に基づくテーラーメイド治療の確立	山田 豪	消化器外科二	2,080,000	補委	日本学術振興会
心筋梗塞に対するエクソソーム投与による心筋再生誘導の検討	寺澤 幸枝	心臓外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
大動脈形態の3D画像解析によるステントグラフト長期予後規定因子の分析	杉本 昌之	血管外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
神経筋接合部保持が神経機能再生にもたらす効果とその利用法の確立	大西 哲朗	手の外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸レセプターCD44の断片化阻害による、軟骨細胞の脱分化抑制効果	高橋 伸典	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
敗血症関連脳症の病態機序の解明および治療薬の検討	里元 麻衣子	麻酔科	604,008	補委	日本学術振興会
薬物生体相互作用の多次元行列を用いた解析による、新薬力学モデルの開発	足立 裕史	麻酔・蘇生医学	2,470,000	補委	日本学術振興会
網膜色素変性における網膜内層の機能と形態	上野 真治	眼科	1,950,000	補委	日本学術振興会
2光子励起顕微鏡を用いたクロイド内膠原線維のライブイメージングとその解析	高成 啓介	形成外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
アカデミックナースによる病院と大学のパートナーシップモデルの構築	寺田 八重子	看護キャリア支援室	1,560,000	補委	日本学術振興会
医療現場の倫理問題への制度的関与の検討	飯島 祥彦	生命倫理統括支援室	260,000	補委	日本学術振興会
がん薬物療法における血管新生阻害作用に関連した臨床薬理研究	満間 綾子	ガンプロ	780,000	補委	日本学術振興会
生薬成分・腸内細菌代謝産物によるサイトカイン・ケモカイン産生制御と抗炎症療法	石黒 和博	消化器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新規脂肪由来分泌因子による血管リモデリング制御機構	大橋 浩二	分子心血管学寄附講座(循環器内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
MKおよび血管拡張因子EETsを介した腎・血圧調節機構の解明と新規降圧療法の開発	加藤 佐和子	腎臓内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
免疫介在性ニューロパチーにおける傍ランビエ絞輪部に着目した軸索障害機序の解明	飯島 正博	神経内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
カルバペネム耐性E. cloacaeの薬剤耐性機序と分子疫学に関する研究	八木 哲也	臨床感染統御学	1,690,000	補委	日本学術振興会
脳波一機能的MRI同時記録によるウエスト症候群のてんかん焦点の解明と予後予測	夏目 淳	障害児医療寄附講座(小児科)	2,340,000	補委	日本学術振興会
マルチパラメトリック画像による胆管癌の時空間的予後決定因子解析	鈴木 耕次郎	放射線科	2,340,000	補委	日本学術振興会

Hybrid EMTの見地からみた胸管内微小腫瘍細胞の同定による新たな食道癌治療	小池 聖彦	消化器外科二	1,950,000	補委	日本学術振興会
ピサボロール誘導体の作用機序の解明と臨床応用	國料 俊男	腫瘍外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる骨折・骨欠損新規治療法の開発	三島 健一	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬は可逆的なヒストン脱メチル化に関与しているか	小西 裕子	麻酔科	2,080,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来再生細胞による尿失禁再生治療の作用機序と前立腺癌細胞に対する影響の検討	後藤 百万	泌尿器科	1,950,000	補委	日本学術振興会
先天性難聴を誘発する新規分子の特定と予防・治療法の開発	曾根 三千彦	耳鼻いんこう科	1,560,000	補委	日本学術振興会
超高解像度眼底撮影装置・黄斑部局所網膜電図を用いた網膜血管と視機能の関係の検討	伊藤 逸毅	眼科	2,080,000	補委	日本学術振興会
活性化大網培養上清を用いた難治性創傷治癒に与える影響に関する基礎的研究	亀井 譲	形成外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
熱による新規骨形成促進法の開発:マグネタイト微粒子の応用	西田 佳弘	整形外科	780,000	補委	日本学術振興会
組織再生スケールアップを目指した生体内血管網構築法の開発	日比 英晴	歯科口腔外科	780,000	補委	日本学術振興会
骨格筋再生と増殖因子GFXに関する研究ーサルコペニア治療を目指して	葛谷 雅文	老年内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
共感をキーワードにして臨床推論と患者中心の医療を融合する外来診療実習プログラム	伴 信太郎	総合診療医学	910,000	補委	日本学術振興会
電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築	檜 顕成	小児外科(小児がん治療センター)	650,000	補委	日本学術振興会
骨格筋再生におけるカテプシンKの役割とその機序について	小笠原 真雄	老年内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
生体応答を模倣した細胞内導入デリバリーシステムを用いた肺線維症の新規治療法の開発	橋本 直純	呼吸器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
リアルタイム機能的MRI-脳波同時測定装置を用いた時間的空間的脳内神経回路解析	渡辺 宏久	神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ドラッグリポジショニング戦略による進行性骨化性線維異形成症治療薬の開発	鬼頭 浩史	整形外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬と抗癌剤の併用療法の可能性を探る	平井 昂宏	麻酔科	1,040,000	補委	日本学術振興会
磁気インピーダンスセンサを応用した高精度の生体振動評価装置の構築	中村 のぞみ	麻酔科	1,820,000	補委	日本学術振興会
微小環境からみた婦人科腫瘍進展機序の包括的研究	岩瀬 明	産科婦人科	1,690,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌における細胞骨格制御システムが織りなす腹膜播種の新規機序と包括的治療の構築	梶山 広明	産科婦人科	1,820,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞由来エクソソームの皮膚創傷治癒に与える影響に関する基礎的研究	神戸 未来	形成外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
敗血症性心筋の炎症制御と陽性変力作用改善を目的とした創薬基盤形成	松田 直之	救急・集中医学	1,430,000	補委	日本学術振興会
抗炎症性・組織再生型マクロファージを誘導する新規タンパク複合体による骨延長研究	山本 朗仁	歯科口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
イメージング創薬プラットフォームとして応用可能な新規トランスジェニックマウスの創製	山田 清文	薬剤部	2,210,000	補委	日本学術振興会
筋肉障害発症・進展におけるGFXの役割とその治療に向けた基盤構築	五藤 大貴	老年内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
慢性ストレス関連疾患の機序の解明と治療標的の探索	竹下 享典	輸血部	1,950,000	補委	日本学術振興会
慢性肺疾患児の複数臓器障害に対する包括的細胞療法の開発	早川 昌弘	総合周産母子医療センター(小児科)	1,170,000	補委	日本学術振興会

薬剤誘発リンパ管-静脈吻合によるリンパ浮腫に対する新しい治療法の開発	中村 優	形成外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
超高齢化社会の医療人材不足を克服する次世代医療用ウェアラブルセンサーの新規開発	内田 広夫	小児外科	910,000	補委	日本学術振興会
ゴルジ装置から細胞膜へGPIアンカー型タンパク質の輸送に働く因子の網羅的解析	田嶋 優子	機能分子制御学	2,990,000	補委	日本学術振興会
腎臓可視化透明モデル動物を用いた先天性腎疾患に対するオーファンドラッグの創薬	丸山 彰一	腎臓内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
孤発性ALSにおける小胞制御異常の病態解明と治療法開発	勝野 雅央	神経内科	3,380,000	補委	日本学術振興会
遠隔エンハンサーとクロマチドメインTADsの異常による新規遺伝病発症機序の解明	秋山 真志	皮膚科	3,380,000	補委	日本学術振興会
コモンマーズレットのゲノム解析による精神疾患モデル霊長類の同定	尾崎 紀夫	精神科	1,690,000	補委	日本学術振興会
開心術後癒着を防止するとともに心膜再生を誘導する新たな手術支援材料創出の試み	成田 裕司	心臓外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Dkk1分子発現亢進による新規変形性関節症治療薬の開発	石黒 直樹	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
卵巣がん細胞由来エクソソームによる新規腹膜播種メカニズム解明と治療法の開発	吉川 史隆	産婦人科	1,820,000	補委	日本学術振興会
進行卵巣癌に対する新しい戦略的腫瘍溶解性ウイルス療法の開発	那波 明宏	ペリネオネオプラズマ産婦人科産学協同研究講座	1,690,000	補委	日本学術振興会
DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み	田井中 貴久	小児外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫の臓器指向性のメカニズム解明と節外臓器浸潤を抑制する新規治療法の開発	島田 和之	高等研究院	1,300,000	補委	日本学術振興会
Muse細胞を用いた周産期脳障害の新規治療開発	鈴木 俊彦	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔領域の疼痛性障害を対象とした痛覚閾値の定量的評価および精神医学的評価	徳倉 達也	精神科	780,000	補委	日本学術振興会
新規CTC採取マウスモデルの確立と原発巣・転移巣・CTC遺伝子発現の研究	岩田 直樹	消化器外科二	910,000	補委	日本学術振興会
ラット横隔膜ヘルニアモデルを用いた胎仔肺低形成に対する治療戦略	津田 弘之	産科婦人科	910,000	補委	日本学術振興会
糖転移酵素C2GnTによる絨毛細胞の浸潤機序の解明と治療への応用	新美 薫	産科婦人科	910,000	補委	日本学術振興会
網膜静脈閉塞に伴う黄斑浮腫の機能・形態・分子生物学的解析	安田 俊介	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会
がん分子標的薬の特性を考慮したベイズ流用量探索法の研究開発	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
ALS治療を目的とした糖鎖によるミクログリア形質転換機序の解明	小林 和克	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
成熟T/NK細胞リンパ腫における新規予後指標の開発を目的とした多施設共同研究	加藤 省一	病態構造解析学	1,040,000	補委	日本学術振興会
「糖尿病」と「認知症」および「ソーシャルキャピタル(SC)」との関連性	末松 三奈	地域医療教育学寄附講座	780,000	補委	日本学術振興会
発現ネットワーク解析とエピゲノム情報に基づくアディポネクチン発現パスウェイの解明	中柄 昌弘	先端医療・臨床研究支援センター	2,210,000	補委	日本学術振興会
在宅医療の推進及び介護負担軽減のための方策の検討	伊奈 孝一郎	老年内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
高齢者に対する個別化された鎮静を用いた低侵襲な気管支鏡検査の確立	岡地 祥太郎	呼吸器内科	650,000	補委	日本学術振興会
癌幹細胞性を有する循環腫瘍細胞を標的とした個別化医療の開発	長谷 哲成	呼吸器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
タクロリムス誘導体のドラッグリポジショニングによる新規神経変性治療法の開発	藤内 玄規	神経内科	1,820,000	補委	日本学術振興会

前頭側頭葉変性症の患者死後脳を用いた診断・病態マーカーの探索・同定	陸 雄一	神経内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
多系統萎縮症における早期診断マーカーの開発:神経回路解析を中心に	原 一洋	神経内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
候補遺伝子の網羅的シーケンスによる孤発性ALS病態関連遺伝子の同定	中村 亮一	神経内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
異常タンパク封じ込め機構における小胞体シャペロンBiPの機能解析	萩原 大輔	糖尿病・内分泌内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
幹細胞を用いた周産期脳障害の新規治療法開発	北瀬 悠磨	総合周産期母子医療センター(小児)	910,000	補委	日本学術振興会
統合失調症のゲノムコピー数変異解析とバイオインフォマティクスを用いた分子病態研究	久島 周	精神科	1,560,000	補委	日本学術振興会
主観的認知障害のコネクティブ解析によるアルツハイマー病超早期診断法の開発	牧野 多恵子	老年科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Heavily T2強調3D-FLAIRによる進行性核上性麻痺の新規診断法開発	山崎 雅弘	放射線科	1,690,000	補委	日本学術振興会
乳がん術中照射用プレートの改良:高いQOLを目指して	川村 麻里子	放射線科	780,000	補委	日本学術振興会
胃癌におけるMAGE-D2遺伝子の包括的機能解析と、新規血清マーカーへの応用	橋本 良二	消化器外科二	1,430,000	補委	日本学術振興会
HCC再発のリスク因子(腫瘍および背景肝)となるlncRNAの同定とその臨床応用	園原 史訓	消化器外科二	1,690,000	補委	日本学術振興会
プラズマ照射液腹腔内投与による癌性腹膜炎制御への挑戦	服部 憲史	消化器外科二	2,080,000	補委	日本学術振興会
消化器外科手術切除断端へのRapid QMSP法の応用	高野 奈緒	消化器外科二	1,950,000	補委	日本学術振興会
血清エクソソームmiRNAによるテーラーメイド食道癌術前化学放射線療法への挑戦	丹羽 由紀子	消化器外科二	1,950,000	補委	日本学術振興会
Transcriptome解析により同定した胃癌腹膜播種再発責任分子の機能解析	神田 光郎	消化器外科二	1,430,000	補委	日本学術振興会
高度な画像認識技術を用いた手術ナビゲーションシステムの開発と臨床応用	中村 彰太	呼吸器外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
もやもや病におけるエピジェネティクス解析-発症メカニズム解明にむけて-	荒木 芳生	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
悪性末梢神経鞘腫瘍の新規予後予測因子および治療法の開発:ヒアルロン酸を標的として	生田 国大	整形外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬はエピゲノム異常を引き起こすか?	水野 祥子	麻酔科	1,170,000	補委	日本学術振興会
人工尿逆流による前立腺炎モデルの確立とPDE5阻害薬の炎症抑制作用の機序の解明	舟橋 康人	泌尿器科	1,430,000	補委	日本学術振興会
低活動膀胱モデルにおける脂肪由来幹細胞注入療法	松川 宜久	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会
新規EMT誘導転写因子を標的とし、難治性卵巣癌の腹膜進展制御を目指す新たな挑戦	関谷 龍一郎	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
大気圧プラズマによるEMT制御と腹膜播種抑制の新展開~難治性卵巣癌の予後向上へ~	内海 史	総合周産期母子医療センター(産科婦人科)	1,430,000	補委	日本学術振興会
卵巣がんのHeterogeneityと腹腔内免疫環境解析に基づいた腹膜播種の克服	鈴木 史朗	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
遊離神経片内motoneuron移植によるfree-design筋移植術の実現	中野 智則	手の外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
高精度放射線治療における投与線量検証の患者個別化とその有用性に関する研究	加茂前 健	放射線科	1,690,000	補委	日本学術振興会
猪苓湯が出血性膀胱炎に作用する分子生物学的機構の解明	川島 希	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
脳深部刺激療法後のパーキンソン病患者における発話障害の病態解明と治療法の開発	坪井 崇	神経内科	1,950,000	補委	日本学術振興会

Escobar症候群の分子病態解明とGFPT1先天性筋無力症候群の治療法開発研究	中田 智彦	小児科	2,210,000	補委	日本学術振興会
新生児壊死性腸炎に対する新規細胞療法の開発	見松 はるか	総合周産期母子医療センター(小児科)	1,560,000	補委	日本学術振興会
幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療法の開発	齊藤 明子	総合周産期母子医療センター(小児科)	1,690,000	補委	日本学術振興会
遺伝性角化症のオーダーメイド治療の確立	武市 拓也	皮膚科	1,950,000	補委	日本学術振興会
統合失調症死後脳におけるオリゴデンドロサイト/ミエリンの神経病理学的研究	鳥居 洋太	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
22q11.2欠失細胞から捉える統合失調症の病態解明	有岡 祐子	先端医療・臨床研究支援センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
Transcriptome解析より同定した胃癌肝転移関連分子の発現および機能解析	田中 友理	消化器外科二	2,470,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌におけるSAMS1遺伝子の機能解析と、血清腫瘍マーカーへの応用	江坂 和夫	消化器外科二	2,470,000	補委	日本学術振興会
胸腺腫の病態解明と治療への応用	羽切 周平	呼吸器外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
エピゲノム修飾因子を標的とした悪性脳腫瘍の異常エピゲノムの修復	大岡 史治	脳神経外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
プロテオーム解析を用いたデスマイド腫瘍の病態と新規バイオマーカーの探索的研究	濱田 俊介	整形外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
多能性幹細胞由来運動神経細胞を用いた神経再支配による麻痺筋の新規治療戦略	新海 宏明	手の外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷後のリハビリテーションが再生軸索に及ぼす影響	石川 喜資	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ゴナドトロピン反応性獲得機構の解明とヒト卵胞培養への応用	中村 智子	産科婦人科	1,950,000	補委	日本学術振興会
MYH9異常症モデルマウスを用いた難聴発症メカニズムの検討	吉田 忠雄	耳鼻いんこう科	1,560,000	補委	日本学術振興会
VEGF非依存性脈絡膜血管新生制御機構の解明	片岡 恵子	眼科	2,600,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来間葉系幹細胞による組織内微小環境因子の薬剤関連顎骨壊死治療への応用	大杉 将嗣	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
オッセオインテグレーション過程における骨芽細胞の石灰化メカニズムの解明	大森 正裕	歯科口腔外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
DNA脱メチル化を指標とした口腔がん新規エピゲノム治療法の開発	市村 典久	歯科口腔外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
幹細胞由来培養上清を用いた大規模骨欠損における新規治療法の開発	原 憲史	歯科口腔外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
転写因子複合体による新たな歯原性上皮幹細胞分化制御機構の解明	酒井 陽	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周産期ウイルス感染が惹起する炎症反応に基づく神経発達障害の分子機構の解明	伊藤 教道	薬剤部	2,210,000	補委	日本学術振興会
呼吸器疾患患者に対するリハビリテーション方策(電気刺激療法)の新規開拓	井上 貴行	リハビリテーション部	2,600,000	補委	日本学術振興会
せん妄の薬物療法を開拓する: 髄液分析および介入研究	中嶋 宏貴	老年内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
新規に開発した高伸張性生分解性ポリマーを足場とした血管再生医療技術の確立	西塚 隆伸	手の外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
質量分析法を用いた睡眠呼吸障害における脂質代謝異常のメカニズムの検討	宮田 聖子	睡眠医学寄附講座(耳鼻いんこう科)	650,000	補委	日本学術振興会
肥大型心筋症における微小循環不全と血管新生促進・抑制機構のメカニズム解明研究	森本 竜太	循環器内科	2,860,000	補委	日本学術振興会
心房細動アブレーション治療の予後改善をめざした積極的な生活習慣改善プログラムの導入	柳澤 哲	先端循環器寄附講座(循環器内科)	1,560,000	補委	日本学術振興会

脳腫瘍における術中オールインワン変異解析システムの開発	近藤 五郎	小児集中寄附(脳外)	2,080,000	補委	日本学術振興会
MCIが運動能力に与える影響に関する追跡調査:神経認知課題の危険運転子測力の検証	荒川 直子(河野直子)	精神科	1,820,000	補委	日本学術振興会
脳タンパク質老化と認知症制御に関する国際共同研究を加速するための国際活動支援	祖父江 元	神経内科	14,820,000	補委	日本学術振興会
成人の骨系統疾患患者のQOLに関する研究	鬼頭 浩史	整形外科学	4,095,000	補委	厚生労働省
地域要因に基づいた在宅医療・介護連携推進に関する研究-汎用性の高い在宅医療・介護連携推進・ガイドラインの作成	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	5,000,000	補委	厚生労働省
医療安全管理部門への医師の関与と医療安全体制向上に関する研究	長尾 能雅	医療の質・安全管理部	3,400,000	補委	厚生労働省
腹腔外発生デスマイト型繊維腫瘍患者の診断基準、重症度分類および診療ガイドライン確立に向けた研究	西田 佳弘	整形外科学	1,560,000	補委	厚生労働省
難治性腎疾患に関する調査研究	丸山 彰一	腎臓内科学	27,187,000	補委	厚生労働省
地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	八木 哲也	臨床感染統御学	18,500,000	補委	厚生労働省
電解レーザ微細複合加工技術の実用化による微細医療器具の開発	後藤 秀実	消化器内科学	2,096,172	補委	経済産業省
統合失調症と自閉スペクトラム症のゲノム解析結果を活かした診断法・治療法開発	尾崎 紀夫	精神医学	127,888,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
病理モデル開発と解析	石垣 診祐	神経内科学(難治性神経寄附講座)	5,200,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
精神疾患の病態を反映した鑑別診断、重症度予測が可能な血中バイオマーカーの実用化研究	尾崎 紀夫	精神医学	7,000,000	補委	国立大学法人九州大学
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規資料法の確立に関する研究	長谷川 好規	呼吸器内科学	1,500,000	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
高齢者における新興・再興感染症、インフルエンザ等に関する研究	八木 哲也	臨床感染統御学	1,000,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
前頭側頭型認知症の分子標的治療薬・バイオマーカー開発によるdisease-modifying therapyへの展開	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	67,352,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神疾患に関わる稀な遺伝子変異の探索による病態関連神経回路の解明	尾崎 紀夫	精神医学	47,775,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神疾患に関わる稀な遺伝子変異の探索による病態関連神経回路の解明	尾崎 紀夫	精神医学	2,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
名古屋地区の精神疾患拠点の構築	入谷 修司	精神医学(精神医療学寄附講座)	3,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
生体内の異物・不要物排除機構の解明とその制御による疾患治療	伊藤 恭彦	腎不全システム治療学寄附講座	9,100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
前頭側頭葉変性症/筋萎縮性側索硬化症の神経回路破綻解明に基づく革新的治療開発	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	41,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂質による体表面バリア形成の分子機構の解明	秋山 真志	皮膚病態学	10,400,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
複合性局所疼痛症候群の汎用的で客観的な重症度評価技術の開発	平田 仁	手の外科学	26,890,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

医薬品服用による自動車運転に与える影響の評価方法に関する研究	岩本 邦弘	精神医学	1,400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児急性リンパ性白血病に対する非ウイルスベクターを用いたキメラ抗原受容体T細胞療法の開発	高橋 義行	小児科学(成長発達医学)	33,079,806	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
孤発性ALS患者大規模前向きコホートの臨床バイオソース・ゲノム遺伝子・不死化細胞を用いた病態解明、治療法開発研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	68,250,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究(治験の実施に関する研究[5ALA・SFC](CCT-C-2672))	夏目 淳	小児科学(障害児(者)寄附講座)	700,000	補 委	公益財団法人日本医師会
疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の病態解明・治療法探索のための効率的解析システムの開発	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	2,496,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ドラッグ・リポジショニングによる軟骨無形成症治療薬の開発研究	鬼頭 浩史	整形外科学	52,175,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診断・治療効果評価の向上を目指したEBウイルスDNA量のエビデンスの構築	伊藤 嘉規	小児科学	9,880,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
稀少小児遺伝性血液疾患に対する次世代シーケンサーを利用した診断システムの開発に関する研究	小島 勢二	小児科学(障害児(者)寄附講座)	37,570,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
排尿障害を有する要支援・要介護高齢者の排尿自立に関する研究	松川 宜久	泌尿器科	800,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
FOPに対するシロリムスを用いた医師主導治験	鬼頭 浩史	整形外科学	9,100,000	補 委	国立大学法人京都大学
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	西田 佳弘	整形外科学	420,000	補 委	独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院
要介護高齢者、フレイル高齢者、認知症高齢者に対する栄養療法、運動療法、薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
チロシンキナーゼ阻害薬による慢性骨髄性白血病の治療を目指した研究	清井 仁	血液・腫瘍内科学	1,500,000	補 委	学校法人 近畿大学
がん遺伝子陽性検体の臨床病理学的解析	清井 仁	血液・腫瘍内科学	3,000,000	補 委	国立大学法人東京大学
免疫遺伝情報に基づく非血縁移植統合データベースの構築と最適なドナー・さい帯血の選択	村田 誠	血液・腫瘍内科学	500,000	補 委	愛知県がんセンター
ガイドライン治療計画およびエビデンスの集積	尾崎 紀夫	精神医学	3,650,000	補 委	杏林大学
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究	室原 豊明	循環器内科学	200,000	補 委	国立大学法人九州大学
原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析	小島 勢二	小児科学(障害児(者)寄附講座)	3,700,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
試験治療の実施・臨床研究の統括	平田 仁	手の外科学	9,919,000	補 委	国立大学法人大阪大学

適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
医師主導治験の実施の支援及び推進に関する研究(神経芽種の患者に対するモノクローナル抗体ch14.18/CHO持続投与の第I相試験(医師主導治験))	高橋 義行	小児科学(成長発達医学)	7,916,000	補 委	公益財団法人日本医師会
歯髄再生治療をモデルとした高齢者の再生治療を促進する因子(RSF)の開発	山本 徳則	泌尿器科学	500,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
認知症の当事者・家族の視点にもとづく療養指導のためのエビデンス構築研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
虚血肢治療用低侵襲ナノ粒子製剤の実用化	古森 公浩	血管外科学	3,000,000	補 委	国立大学法人九州大学
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	吉川 史隆	産婦人科学	1,000,000	補 委	茨城県立中央病院
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	小寺 泰弘	消化器外科学	390,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
CHP/NY-ESO-1ポリペプチドが胃がんの術後食道癌症例を対象とした多施設共同前期第II相臨床試験(根治切除術後食道癌のNY-ESO-1抗原発現陽性例に対するIMF-001の多施設共同無作為比較試験(第II相臨床試験))	小寺 泰弘	消化器外科学	1,000,000	補 委	国立大学法人三重大学
加齢に伴う聴覚・平衡覚の病態解明および治療の標準化に関する研究	寺西 正明	耳鼻咽喉科学	600,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の血管性認知症に対する心-脳連関に着目した新規予防法及び治療法の開発(副題:PDE III阻害薬であるプレタルのもつ心拍数増加作用に着目した、高齢者の血管性認知症に対する新規予防法及び治療法の開発)	因田 恭也	循環器内科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
視機能が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法の標準化に関する研究	寺崎 浩子	眼科学	400,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病におけるpreclinical/prodromal期からの自然歴解明とバイオマーカー開発	勝野 雅央	神経内科学	1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ゾニサミドによる認知症を伴うパーキンソン病におけるBPSD軽減効果の検証	勝野 雅央	神経内科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
神経疾患における免疫病態の解明と治療法開発に関する研究	小池 春樹	神経内科学	500,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
先天性赤芽球癆(Diamond-Blackfan貧血)の新規原因遺伝子の同定と病態解明に関する研究	小島 勢二	小児科学(障害児(者)寄附講座)	650,000	補 委	国立大学法人弘前大学
集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	小島 勢二	小児科学(障害児(者)寄附講座)	3,000,000	補 委	国立大学法人京都大学
移植後日和見感染症に対する特異的T細胞療法の開発と臨床応用に関する研究	高橋 義行	小児科学(成長発達医学)	1,040,000	補 委	国立大学法人東京医科歯科大学

HLA不適合血縁者間移植の治療成績を向上し、造血管疾患治療における位置づけを明らかにするための研究	高橋 義行	小児科学(成長発達医学)	300,000	補 委	学校法人自治医科大学
遠位型ミオパチーにおけるN-アセチルノイラミン酸の第2/3相試験	勝野 雅央	神経内科学	2,600,000	補 委	国立大学法人東北大学
膠芽腫の治療薬の開発とその臨床応用	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	3,600,000	補 委	公立大学法人名古屋市立大学
球脊髄性筋萎縮症に対する酢酸リユープロレリンの効果に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	200,000	補 委	公益財団法人日本医師会
インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	村田 誠	血液・腫瘍内科学	300,000	補 委	国立大学法人岡山大学
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	1,200,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー型認知症患者を中心とした非アルツハイマー型認知症登録を目指した基盤整備に関する研究	勝野 雅央	神経内科学	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
BIM遺伝子多型に起因するEGFR変異肺癌のEGFR阻害薬耐性をポリヌタット併用で克服	長谷川 好規	呼吸器内科学	1,300,000	補 委	国立大学法人金沢大学
RET融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクテニブの有効性を明らかにする研究	長谷川 好規	呼吸器内科学	1,300,000	補 委	国立大学法人金沢大学
分岐鎖アミノ酸製剤(BCAA)第II/III相臨床試験—BCAAの多発性筋炎・皮膚筋炎患者を対象とした有効性、安全性を検討するプラセボ対照二重盲検並群間比較試験及び非盲検継続試験—	室 慶直	皮膚病態学(皮膚結合組織病態学)	512,500	補 委	国立大学法人東京医科歯科大学
ギラン・バレー症候群に対するエクリズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	小池 春樹	神経内科学	780,000	補 委	国立大学法人千葉大学
薬物治療ガイドライン作成と普及	稲田 俊也	精神医学(精神生物学)	650,000	補 委	国立大学法人弘前大学
CKD免疫学調査	丸山 彰一	腎臓内科学	1,000,000	補 委	国立大学法人筑波大学
成人骨髄性腫瘍のクリニカルシーケンス体制の確立とデータ共有	清井 仁	血液・腫瘍内科学	7,592,000	補 委	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
IoT推進のための新産業モデル創出基盤整備事業「毎日の糖尿病管理を七福神が伴走！未受診・脱落・コントロール不良をなくせ!!」	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	249,121	補 委	公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団
遺伝子変異の機能解析(Desmoid型線維腫症)、臨床検体の収集	西田 佳弘	整形外科	650,000	補 委	国立大学法人東京大学
小児HBV感染およびHCV感染の調査(中部地区)	伊藤 嘉規	小児科学	200,000	補 委	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センター
重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病を対象としたドネペジルの予後改善効果に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	600,000	補 委	独立行政法人国立病院機構仙台西多賀病院
総合診療科外来を受診する慢性疲労症候群患者の集学的治療に関する研究	伴 信太郎	総合診療医学	500,000	補 委	学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学
遺伝性網脈絡膜疾患の生体試料の収集・管理・提供と病態解明	寺崎 浩子	眼科学	500,000	補 委	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
筋萎縮性側索硬化症(ALS)新規治療法開発をめざした病態解明	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	1,300,000	補 委	国立大学法人東北大学

孤発性ALS患者ゲノム遺伝子リソースの構築/孤発性ALS患者エクソームシーケンス/遺伝子臨床相関の解析	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	4,500,000	補 委	国立大学法人 神戸大学
On the job training回避を目的とした小児内視鏡手術統合的術前トレーニングシステム・認定プログラムの確立に関する研究	内田 広夫	小児外科学	14,599,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症患者の疾患登録システムの研究開発	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	100,000,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
ゲノム解析の実施、同定変異の基礎研究とその臨床実用化	室原 豊明	循環器内科学	1,000,000	補 委	国立大学法人 大阪大学
「内視鏡外科手術における熟練技術習得システムを使用したトレーニングシステムの評価	内田 広夫	小児外科学	650,000	補 委	国立大学法人 大阪大学
次世代プリンテッドエレクトロニクス材料・プロセス基盤技術開発/⑥フレキシブル複合機能デバイス技術の開発	内田 広夫	小児外科学	4,236,000	補 委	国立研究開発 法人新エネル ギー・産業技 術総合開発機 構
非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペメトレキセドを用いた術後補助化学療法	横井 香平	呼吸器外科学	130,000	補 委	国立研究開発 法人国立がん 研究センター
難治性気道疾患新規診断法開発研究	長谷川 好規	呼吸器内科学	325,000	補 委	学校法人東邦 大学
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	後藤 百万	泌尿器科学	273,000	補 委	国立大学法人 九州大学
間脳下垂体機能障害関する長期予後調査研究	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	800,000	補 委	独立行政法人 国立病院機構 京都医療セン ター
免疫性ニューロパシーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	4,290,000	補 委	学校法人近畿 大学
遺伝性神経疾患の遺伝子解析に基づく病態解明に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	1,300,000	補 委	国立大学法人 鹿児島大学
大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン作成に関する研究	碓氷 章彦	心臓外科学	550,000	補 委	国立研究開発 法人 国立循 環器病研究セ ンター
動物モデル、臨床データ、患者検体の提供と病態解析	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	800,000	補 委	愛知医科大学
運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	800,000	補 委	国立研究開発 法人国立精神・ 神経医療研究 センター
産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japanで組織した遺伝子スクリーニング基盤を利用した、多施設多職種専門家から構成されたExpert Panelによる全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および研修プログラムの開発	長谷川 好規	呼吸器内科学	3,900,000	補 委	国立研究開発 法人国立がん 研究センター
鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する内視鏡下頭蓋底手術の標準化を目指した多施設共同研究	藤本 保志	耳鼻咽喉科学	260,000	補 委	国立大学法人 東京医科歯科 大学
冠動脈ステント留置を行った心房細動患者に対する、抗血栓療法に関する検討(多施設共同研究)	室原 豊明	循環器内科学	680,000	補 委	学校法人藤田 学園
ヒトiPS細胞を用いた視床下部-下垂体ホルモン産生細胞の分化誘導法と移植方法の開発	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科	109,100,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
多施設共同研究におけるがん患者に対する適切なQOL評価法確立のための研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	800,000	補 委	国立研究開発 法人国立がん 研究センター

構造並びに機能再生を目指す脂肪組織由来幹細胞治療の開発	後藤 百万	泌尿器科学	69,247,200	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発 (Muse細胞を用いた再生医療の実現に向けた製剤製造システムの研究開発)	水野 正明	先端医療・臨床研究支援センター	4,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者の小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖尿病の標準的治療の開発と均てん化に関する研究	林 登志雄	老年科学	11,700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HCVに対する抗ウイルス治療後、SVR後の病態に関する研究	林 和彦	消化器内科	1,820,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
悪性リンパ腫の腫瘍細胞と微小環境構成細胞の比較解析と微小環境構成細胞による腫瘍支持機構を標的とする新規治療法の開発	島田 和之	血液内科	3,743,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究	松下 正	輸血部	10,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AYA世代における急性リンパ性白血病の生物学的特性と小児型治療法に関する研究	早川 文彦	血液内科	27,507,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の有効性・安全性の検討とオキシトシン反応性を予測する診断法開発	岡田 俊	親と子どもの心療科	18,102,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	9,300,200	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
多施設共同研究の質的向上に必要な生物統計手法に関する研究	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	800,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
イメージング分析の臨床試験	安藤 雄一	化学療法部	200,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
卵巣がん・子宮がんのPDXモデルを用いた革新的がん免疫療法の開発	鈴木 史朗	産科婦人科	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
日本多施設共同コホート研究(J-MICC study)におけるゲノム情報の解析への利活用と解析を担当	中柄 昌弘	先端医療・臨床研究支援センター	1,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
超高齢者社会における治療困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	1,300,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/1-LV療法vsFLTAX療法のランダム化第II/III相比較試験	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	1,000,000	補 委	学校法人 聖マリアンナ医科大学
QOLデータの収集と解析	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	5,000,000	補 委	学校法人 慶應義塾
脊柱靱帯骨化症の治療指針策定および手術治療の質を高めるための大規模多施設研究	今釜 史郎	整形外科	800,000	補 委	国立大学法人東京医科歯科大学
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	1,950,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター

BIM遺伝子多型に起因するEGFR変異肺癌のEGFR阻害薬耐性をボリノスタット併用で克服する研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	8,580,000	補 委	国立大学法人 金沢大学
GL & QA作成および神経ネットワークを同定	山田 清文	薬剤部	1,300,000	補 委	学校法人 星 薬科大学
ロコモ(虚弱)センター開設に向けての臨床・研究デザイン構想構築に関する多科共同研究	酒井 忠博	整形外科	700,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンのFIH医師主導治験	鈴木 史朗	産科婦人科	1,000,000	補 委	国立研究開発 法人国立がん 研究センター
IL-36RN欠損症モデルマウスの病態解明	小川 靖	皮膚科	8,687,250	補 委	藤田保健衛生 大学 医療科 学部
高齢発症AML/MDSにおける胚細胞変異に基づく個別化医療の確立	村松 秀城	小児科	1,560,000	補 委	国立大学法人 京都大学
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	村松 秀城	小児科	650,000	補 委	国立大学法人 九州大学
低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	早川 昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	600,000	補 委	公立大学法人 大阪市立大学
がん領域Clinical Innovation Network事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	2,600,000	補 委	国立研究開発 法人国立がん 研究センター
「膵癌血液mRNA測定検査」開発におけるプロジェクトマネジメント	藤原 忠美	先端医療・臨床研究支援センター	750,000	補 委	国立大学法人 金沢大学
発達障害を含む児童・思春期精神疾患患者へのインフォームド・アセントのガイドライン作成と普及	岡田 俊	親と子どもの心療科	650,000	補 委	国立大学法人 弘前大学
ロコモ(虚弱)センター開設に向けての臨床・研究デザイン構想構築に関する多科共同研究	今釜 史郎	整形外科	1,000,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
高齢者における体幹および下肢の固有感覚受容が腰痛及び易転倒性に与える影響と腰痛および店頭予防に対するproprioceptive approachへの応用	都島 幹人	輸血部	1,500,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
喫煙者、非喫煙者の肺癌病因に関する分子疫学的研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	500,000	補 委	独立行政法人 国立病院機構 近畿中央胸部 疾患センター
国内初の汎用自動分析装置用IgG4測定試薬の多施設での評価	廣岡 芳樹	消化器内科(光学医療診療部)	200,000	補 委	国立大学法人 信州大学
フレイルの進行予防を目指した高齢者の糖尿病、消化器疾患、血液疾患に対する療養支援チームによる介入に関する研究	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	500,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
高齢者術後せん妄予防・治療のための標準化プログラム作成および術前CGA/虚弱評価による高齢者手術の安全性評価に関する研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	300,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
タウリン治験生物統計解析(生物統計解析)	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	500,000	補 委	学校法人川崎 学園川崎医科 大学
臨床データと検体の管理・遺伝子解析計画の倫理承認取得・融合遺伝子による白血病発症機構の解明	早川 文彦	血液内科	650,000	補 委	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療セ ンター
前臨床期を含めた認知症レジストリーシステム構築におけるデータ管理・統計解析支援	平川 晃弘	先端医療・臨床研究支援センター	260,000	補 委	国立研究開発 法人国立長寿 医療研究セン ター
男性腹圧性尿失禁に対する低侵襲再生治療のための、自己ヒト皮下脂肪組織由来再生(幹)細胞分離用医療機器の開発研究	後藤 百万	泌尿器科学	73,691,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構

切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化比較同時対照試験	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	1,500,001	補 ⑤委	国立研究開発法人国立がん研究センター
腹膜播種に特化した新たな胃癌分子標的医薬の探索	神田 光郎	消化器外科二	5,931,200	補 ⑤委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
腹膜播種に基づく腸管狭窄により経口摂取が不可能になった切除不能進行・再発胃癌症例に対するsurgical interventionの意義と適応に関するQOL scoreを使用した前向きコホート研究	安藤 昌彦	先端医療・臨床研究支援センター	500,000	補 ⑤委	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立急性期・総合医療センター
「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション	水野 正明	先端医療・臨床研究支援センター	4,000,100	補 ⑤委	国立研究開発法人科学技術振興機構
持続可能なネットワーク型中部先端医療開発拠点の形成	石黒 直樹	医学部附属病院	906,842,832	補 ⑤委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計 450

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Inagaki Y, Hayakawa F, Hirano D 他	血液内科	PAX5 tyrosine phosphorylation by SYK co-operatively functions with its serine phosphorylation to cancel the PAX5-dependent repression of BLIMP1: A mechanism for antigen-triggered plasma cell differentiation.	Biochem Biophys Res Commun.2016 Jun;475(2):176-81	Original Article
2	Chen F, Ishikawa Y1 Akashi A 他	血液内科	Co-expression of wild-type FLT3 attenuates the inhibitory effect of FLT3 inhibitor on FLT3 mutated leukemia cells.	Oncotarget.2016 Jul;7(30):47018-47032	Original Article
3	Shimada K, Shimada S, Sugimoto K 他	血液内科	Development and analysis of patient derived xenograft mouse models in intravascular large B-cell lymphoma.	Leukemia.2016 Jul;30(7):1568-79	Original Article
4	Sakemura R, Terakura S, Watanabe K 他	血液内科	A Tet-On Inducible System for Controlling CD19-Chimeric Antigen Receptor Expression upon Drug Administration.	Cancer Immunol Res.2016 Aug;4(8):658-68	Original Article
5	Morishita T, Hayakawa F, Sugimoto K 他	血液内科	The photosensitizer verteporfin has light-independent anti-leukemic activity for Ph-positive acute lymphoblastic leukemia and synergistically works with dasatinib.	Oncotarget.2016 Aug;7(35):56241-56252	Original Article
6	Suzuki Y, Tomita A, Nakamura F 他	血液内科	Peripheral blood cell-free DNA is an alternative tumor DNA source reflecting disease status in myelodysplastic syndromes.	Cancer Sci.2016 Sep;107(9):1329-37	Original Article
7	Takagi Y, Shimada K, Shimada S 他	血液内科	SPIB is a novel prognostic factor in diffuse large B-cell lymphoma that mediates apoptosis via the PI3K-AKT pathway.	Cancer Sci.2016 Sep;107(9):1270-1280	Original Article
8	Goto T, Nishida T, Takagi E 他	血液内科	Programmed Death-Ligand 1 on Antigen-presenting Cells Facilitates the Induction of Antigen-specific Cytotoxic T Lymphocytes: Application to Adoptive T-Cell Immunotherapy.	J Immunother.2016 Oct;39(8):306-15	Original Article
9	Fukushima N, Minami Y, Kakiuchi S 他	血液内科	Small-molecule Hedgehog inhibitor attenuates the leukemia-initiation potential of acute myeloid leukemia cells.	Cancer Sci.2016 Oct;107(10):1422-1429	Original Article
10	Aoki T, Shimada K, Sakamoto A 他	血液内科	Emetine elicits apoptosis of intractable B-cell lymphoma cells with MYC rearrangement through inhibition of glycolytic metabolism.	Oncotarget.2017 Feb;8(8):13085-13098	Original Article

11	Kawase H, Bando YK, Nishimura K 他	循環器内科	A dipeptidyl peptidase-4 inhibitor ameliorates hypertensive cardiac remodeling via angiotensin-II/sodium-proton pump exchanger-1 axis.	J Mol Cell Cardiol.2016 Sep;98:37-47	Original Article
12	Kuwahara T, Hirooka Y, Kawashima H 他	消化器内科	Quantitative evaluation of pancreatic tumor fibrosis using shear wave elastography.	Pancreatology.2016 Nov;16:1063-1068	Original Article
13	Morishima T, Kawashima H, Ohno E 他	消化器内科	Prospective multicenter study on the usefulness of EUS-guided FNA biopsy for the diagnosis of autoimmune pancreatitis.	Gastrointest Endosc .2016 Aug;84:241-8.	Original Article
14	Asano S, Mizuno S, Okachi S 他	呼吸器内科	Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis Superimposed on Infection-related Glomerulonephritis Secondary to Pulmonary Mycobacterium avium Complex Infection	Intern Med .2016 Sep (オンライン)	Case Report
15	Ito S, Furuya K, Sokabe M, Hasegawa Y 他	呼吸器内科	Cellular ATP release in the lung and airway.	AIMS Biophys .2016 Nov;3:571-584.	Review
16	Okachi S, Imai N, Imaizumi K 他	呼吸器内科	Factors Affecting the Diagnostic Yield of Transbronchial Biopsy Using Endobronchial Ultrasonography with a Guide Sheath in Peripheral Lung Cancer.	Intern Med .2016 Jul;55:1705-1712	Original Article
17	Omote N, Kondoh Y, Taniguchi H 他	呼吸器内科	Acute respiratory distress syndrome due to severe pulmonary tuberculosis treated with extracorporeal membrane oxygenation: a case report and review of the literature.	Respiratory Medicine Case Reports .2016 Jun;19:31-33.	Case Report
18	Sato K, Gorka AP, Nagaya T 他	呼吸器内科	Effect of charge localization on the in vivo optical imaging properties of near-infrared cyanine dye/monoclonal antibody conjugates.	Mol Biosyst .2016 Oct;12:3046-56.	Original Article
19	Sato K, Sato N, Xu B 他	呼吸器内科	Spatially selective depletion of tumor-associated regulatory T cells with near infrared photoimmunotherapy.	Sci Transl Med .2016 Aug;8:352:352ra110	Original Article
20	Takahashi K, Taniguchi H, Ando M 他	呼吸器内科	Mean pulmonary arterial pressure as a prognostic indicator in connective tissue disease associated with interstitial lung disease: a retrospective cohort study.	BMC Pulm Med .2016 Apr (オンライン)	Original Article
21	Tsunekawa T, Banno R, Mizoguchi A 他	糖尿病・内分泌内科	Deficiency of PTP1B Attenuates Hypothalamic Inflammation via Activation of the JAK2-STAT3 Pathway in Microglia.	EBioMedicine.2017 Feb (オンライン)	Original Article
22	Onoue T, Goto M, Tominaga T 他	糖尿病・内分泌内科	Reactive oxygen species mediate insulin signal transduction in mouse hypothalamus.	Neurosci Lett.2016 Apr (オンライン)	Original Article
23	Kaihan AB, Yasuda Y, Katsuno T 他	腎臓内科	The Japanese Histologic Classification and T-score in the Oxford Classification system could predict renal outcome in Japanese IgA nephropathy patients	Clin Exp Nephrol.2017 Mar;;	Original Article

24	Ozeki T, Shimizu H, Fujita Y 他	腎臓内科	The Type of Vascular Access and the Incidence of Mortality in Japanese Dialysis Patients.	Intern Med.2017 Mar;56(5):481-485	Original Article
25	Mizuno M, Suzuki Y, Higashide K 他	腎臓内科	High Levels of Soluble C5b-9 Complex in Dialysis Fluid May Predict Poor Prognosis in Peritonitis in Peritoneal Dialysis Patients.	PLoS One.2017 Jan(オン ライン)	Original Article
26	Imaizumi T, Nakatochi M, Akiyama S 他	腎臓内科	Urinary Podocalyxin as a Biomarker to Diagnose Membranous Nephropathy.	PLoS One.2016 Sep(オン ライン)	Original Article
27	Fukaya M, Abe T, Nagino M	消化器外科一	Rapid progressive long esophageal stricture caused by gastroesophageal reflux disease after pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy	BMC Surgery.2016 Apr (オンライン)	Case Report
28	Hirata A, Fukaya M, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Retrocolic or antecolic Roux-en-Y reconstruction after distal gastrectomy: which is more effective in the prevention of postoperative gastroesophageal reflux disease?	Dig Surg.2016 Apr;33(5):371-81	Original Article
29	Yamauchi K, Kokuryo T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Prediction of early recurrence after curative resection of colorectal liver metastasis and subsequent S-1 chemotherapy	Anticancer Res.2016 May;36(5):2175-2179	Original Article
30	Komaya K, Ebata T, Fukami Y 他	消化器外科一	Percutaneous biliary drainage is oncologically inferior to endoscopic drainage: A propensity score matching analysis in resectable distal cholangiocarcinoma	J Gastroenterol.2016 Jun;51(6):608-619	Original Article
31	Yokoyama Y, Ebata T, Igami T 他	消化器外科一	The predictive value of indocyanine green clearance in future liver remnant for postoperative liver failure following hepatectomy with extrahepatic bile duct resection	World J Surg.2016 Jun;40(6):1440-1447	Original Article
32	Miyata K, Fukaya M, Itatsu K 他	消化器外科一	Muscle sparing thoracotomy for esophageal cancer: A comparison with posterolateral thoracotomy	Surg Today.2016 Jul;46(7):807-814	Original Article
33	Uji M, Mizuno T, Ebata T 他	消化器外科一	A case of advanced intrahepatic cholangiocarcinoma accidentally, but successfully, treated with capecitabine plus oxaliplatin (CAPOX) therapy combined with bevacizumab: a case report	Surg Case Rep.2016 Dec (オンライン)	Case Report
34	Nakamura H, Uehara K, Arimoto A 他	消化器外科一	The feasibility of laparoscopic extended pelvic surgery for rectal cancer	Surg Today.2016 Aug;46(8):950-956	Case Report
35	Kamiya T, Uehara K, Nakayama G 他	消化器外科一	Early results of multicenter phase II trial of perioperative oxaliplatin and capecitabine without radiotherapy for high-risk rectal cancer : CORONA I study	Eur J Surg Oncol.2016 Jun;42(6):829-835	Original Article

36	Igami T, Komaya K, Hirose T 他	消化器外科一	Laparoscopic repeat hepatectomy after right hepatopancreatoduodenectomy	Asian J Endosc Surg.2016 May;9:211-214	Case Report
37	Kokuryo T, Hibino S, Suzuki K 他	消化器外科一	Nek2 siRNA therapy using a portal venous port-catheter system for liver metasatsis in pancreatic cancer	Cancerr Sci.2016 Sep;107(9):1315-1320	Original Article
38	Okuno M, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Appraisal of inflammation-based prognostic scores in patients with unresectable perihilar cholangiocarcinoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci.2016 Oct;23(10):636- 642	Original Article
39	Igami T, Nojiri M, Shinohara K 他	消化器外科一	Clinical value and pitfalls of fluorescent cholangiography during single-incision laparoscopic cholecystectomy	Surg Today.2016 Dec;46(12):1443-1450	Original Article
40	Nakamura H, Yokoyama Y, Uehara K 他	消化器外科一	The effects of bevacizumab on intestinal anastomotic healing in rabbits	Surg Today.2016 Dec;46(12):1456-1463	Original Article
41	Hayashi Y, Yamaguchi J, Kokuryo T 他	消化器外科一	The complete loss of tyrosine kinase receptor MET and RON is a poor prognostic factor in patients with extrahepatic cholangiocarcinoma	Anticancer Res.2016 Dec;36(12):6585-6592	Original Article
42	Nojiri M, Igami T, Tanaka H 他	消化器外科一	Application of fluorescent cholangiography for determination of the resection line during a single-incision laparoscopi cholecystectomy for a benign lesion of the cystic duct: Preliminary experience	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech.2016 Dec;26(6):171-173	Original Article
43	Kurita K, Maeda M, Mansour MA 他	消化器外科一	TRIP13 is expressed in colorectal cancer and promotes cancer cell invasion	Oncol Lett.2016 Dec;12(6):5240-5246	Original Article
44	Sunagawa M, Mii S, Enomoto A 他	消化器外科一	Suppression of skin tumorigenesis in CD109-deficient mice	Oncotarget.2016 Dec;7(50):82836-82850	Original Article
45	Sakatoku Y, Fukaya M, Miyata K 他	消化器外科一	Successful bypass operation for esophageal obstruction after acute esophageal necrosis: a case report	Surg Case Rep.2017 Jan (オンライン)	Case Report
46	Kiriyama M, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Occult mucin-producing cholangiocarcinoma in situ: a rare clinical case with difficult tumour staging	Surg Case Rep.2017 Jan (オンライン)	Case Report
47	Mizuno T, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Adjuvant gemcitabine monotherapy for resectable perihilar cholangiocarcinoma with lymph node involvement: a propensity score matching analysis	Surg Today.2017 Feb;47(2):182-192	Original Article
48	Watanabe N, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Anatomic features of independent right posterior portal vein variants: implications for left hepatic trisectionectomy	Surgery.2017 Feb;161(2):347-354	Original Article

49	Komaya K, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	Verification of the oncologic inferiority of percutaneous biliary drainage to endoscopic drainage: A propensity score matching analysis of resectable perihilar cholangiocarcinoma	Surgery.2017 Feb;161(2):394-404	Original Article
50	Otsuji H, Yokoyama Y, Ebata T 他	消化器外科一	Surgery-related muscle loss and its association with postoperative complications after major hepatectomy with extrahepatic bile duct resection	World J Surg.2017 Feb;41(2):498-507	Original Article
51	Takagi T, Yokoyama Y, Kokuryo T 他	消化器外科一	A clear difference between the outcome after a major hepatectomy with and without an extrahepatic bile duct resection	World J Surg.2017 Feb;41(2):508-515	Original Article
52	Hirose T, Igami T, Koga K 他	消化器外科一	The development of an automatic producing cholangiography procedure reconstructed from portal phase multidetector-row computed tomography images: Preliminary experience	Surg Today.2017 Mar;47:365-374	Original Article
53	Murata Y, Kokuryo T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	The anti-cancer effect of novel α -bisabolol derivatives against pancreatic cancer	Anticancer Res.2017 Feb;37:589-598	Original Article
54	Komaya K, Ebata T, Shirai K 他	消化器外科一	Recurrence after resection with curative intent for distal cholangiocarcinoma	Br J Surg.2017 Mar;104(4):426-433	Original Article
55	Maekawa T, Komori K, Kodama A 他	血管外科	The impact of inflow treatment for claudicants with both aortoiliac and femoropopliteal occlusive disease.	Surg Today.2017 Mar;47:293	Original Article
56	Tokunaga S, Ihara T, Banno H 他	血管外科	The Relationship between Temporal Changes in Proximal Neck Angulation and Stent-Graft Migration after Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair.	Ann Vasc Surg.2017 Feb;39:119	Original Article
57	Narita H, Komori K, Usui A 他	血管外科	Postoperative Outcomes of Hybrid Repair in the Treatment of Aortic Arch Aneurysms.	Ann Vasc Surg.2016 Jul;34:55	Original Article
58	Yamamoto K, Komori K, Narita H 他	血管外科	A 'through-and-through bowing technique' for antegrade thoracic endovascular aneurysm repair with total arch debranching: a technical note and the initial results.	Eur J Cardiothorac Surg.2016 Apr;49:1268	Original Article
59	Kodera Y, Takahashi N, Yoshikawa T 他	消化器外科二	Feasibility of weekly intraperitoneal versus intravenous paclitaxel therapy delivered from the day of radical surgery for gastric cancer: a preliminary safety analysis of the INPACT study, a randomized controlled trial.	Gastric Cancer.2017 Jan;20(1):190-199	Original Article
60	Satoi S, Fujii T, Yanagimoto H 他	消化器外科二	Multicenter Phase II Study of Intravenous and Intraperitoneal Paclitaxel With S-1 for Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Patients With Peritoneal Metastasis.	Annals of Surgery.2017 Mar;265(2):397-401	Original Article

61	Shimizu D, Kanda M, Tanaka H 他	消化器外科二	GPR155 Serves as a Predictive Biomarker for Hematogenous Metastasis in Patients with Gastric Cancer.	Scientific Reports.2017 Feb(オンライン)	Original Article
62	Watanabe T, Takahashi N, Hirabara S 他	整形外科	Hyaluronan Inhibits Tlr-4-Dependent RANKL Expression in Human Rheumatoid Arthritis Synovial Fibroblasts.	PLoS One.2016 Apr(オンライン)	Original Article
63	Matsumoto T, Takahashi N, Kojima T 他	整形外科	Soluble Siglec-9 suppresses arthritis in a collagen-induced arthritis mouse model and inhibits M1 activation of RAW264.7 macrophages.	Arthritis Research and Therapy.2016 Jun;18(1):133	Original Article
64	Kojima T, Takahashi N, Funahashi K 他	整形外科	Improved safety of biologic therapy for rheumatoid arthritis over the 8-year period since implementation in Japan: long-term results from a multicenter observational cohort study.	Clinical Rheumatology.2016 Apr;35(4):863-871	Original Article
65	Hida T, Sakai Y, Ito K 他	整形外科	A Collar Fixation is not Mandatory after Cervical Laminoplasty: A Randomized Controlled Trial.	Spine (Phila Pa 1976).2017 Mar;42(5):E253-E259	Original Article
66	Imagama S, Kawakami N, Matsubara Y 他	整形外科	Radiographic Adjacent Segment Degeneration at 5 Years After L4/5 Posterior Lumbar Interbody Fusion With Pedicle Screw Instrumentation: Evaluation by Computed Tomography and Annual Screening With Magnetic Resonance Imaging.	Clin Spine Surg.2016 Nov;29(9):E442-E451	Original Article
67	Ando K, Imagama S, Ito Z 他	整形外科	Self-assembling Peptide Reduces Glial Scarring, Attenuates Posttraumatic Inflammation, and Promotes Neurite Outgrowth of Spinal Motor Neurons	Spine (Phila Pa 1976).2016 Oct;41(20):E1201-E1207	Original Article
68	Kobayashi K, Imagama S, Ito Z 他	整形外科	Transcranial motor evoked potential waveform changes in corrective fusion for adolescent idiopathic scoliosis	J Neurosurg Pediatr.2017 Jan;19(1):108-115	Original Article
69	Imagama S, Ito Z, Ando K 他	整形外科	Rapid worsening of symptoms and high cell proliferative activity in intra- and extramedullary spinal hemangioblastoma: a need for earlier surgery	Global Spine J.2017 Feb;7(1):6-13	Original Article
70	Imagama S, Ando K, Ito Z 他	整形外科	Resection of Beak-Type Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament from a Posterior Approach under Intraoperative Neurophysiological Monitoring for Paralysis after Posterior Decompression and Fusion Surgery	Global Spine J.2016 Dec;6(8):812-821	Original Article
71	Ito K, Imagama S, Ito Z 他	整形外科	Analysis of cervical kyphosis and spinal balance in young idiopathic scoliosis patients classified by the apex of thoracic kyphosis	Eur Spine J.2016 Oct;25(10):3220-3225	Original Article
72	Ando K, Imagama S, Kobayashi K 他	整形外科	A Comparative Study of Surgical Treatment and Non-surgical follow-up for Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: Radiological and Clinical Evaluation	Spine (Phila Pa 1976).2017 Mar;42(6):407-410	Original Article

73	Kobayashi K, Imagama S, Ando K 他	整形外科	Contrast MRI Findings for Spinal Schwannoma as Predictors of Tumor Proliferation and Motor Status	Spine (Phila Pa 1976).2017 Feb;42(3):E150-E155	Original Article
74	Ito K, Imagama S, Ito K 他	整形外科	MRI Signal Intensity Classification in Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament –Predictor Of Surgical Outcomes	Spine (Phila Pa 1976).2017 Jan;42(2):E98-E103	Original Article
75	Kobayashi K, Imagama S, Ito Z 他	整形外科	Utility of a Computed Tomography–Based Navigation System (O–Arm) for En Bloc Partial Vertebrectomy for Lung Cancer Adjacent to the Thoracic Spine: Technical Case Report	Asian Spine J.2016 Apr;10(2):360–5	Original Article
76	Hida T, Yukawa Y, Ito K 他	整形外科	Intrathecal morphine for postoperative pain control after laminoplasty in patients with cervical spondylotic myelopathy	J Orthop Sci.2016 Jul;21(4):425–30	Original Article
77	Ito K, Imagama S, Ito Z 他	整形外科	Screw fixation for atlantoaxial dislocation related to Down syndrome in children younger than 5 years	J Pediatr Orthop B.2017 Jan;26(1):86–90	Original Article
78	Nishida Y, Tsukushi S, Urakawa H 他	整形外科	Simple resection of truncal desmoid tumors: A case series.	Oncol Lett.2016 Aug;12(2):1564–1568	Original Article
79	Morita D, Nishida Y, Higuchi Y 他	整形外科	Short–range ultraviolet irradiation with LED device effectively increases serum levels of 25(OH)D	J Photochem Photobiol B.2016 Nov;164:256–263	Original Article
80	Ikuta K, Ota T, Nishida Y 他	整形外科	Antitumor effects of 4–methylumbelliferone, a hyaluronan synthesis inhibitor, on malignant peripheral nerve sheath tumor.	Int J Cancer .2017 Jan;140(2):469–479	Original Article
81	Takegami Y, Seki T, Kaneuji A 他	整形外科	Validity of a tablet computer version of the Japanese Orthopaedic Association hip disease evaluation questionnaire: a pilot study.	Nagoya Journal of Medical Science.2016 Aug;78(3):237–244	Original Article
82	Higuchi Y, Hasegawa Y, Komatsu D 他	整形外科	Survivorship Between 2 Different Ceramic–on–Ceramic Total Hip Arthroplasty With or Without a Metal–Backed Titanium Sleeve Bearing: A 5– to 14–Year Follow–Up Study.	The Journal of arthroplasty.2017 Jan;32(1):155–160	Original Article
83	Amano T, Hasegawa Y, Seki T 他	整形外科	Preoperative prognosis score is a useful tool regarding eccentric rotational acetabular osteotomy in patients with acetabular dysplasia.	Journal of Orthopaedic Science.2016 May;21(3):348–353	Original Article
84	Higuchi Y, Hasegawa Y, Seki T 他	整形外科	Significantly Lower Wear of Ceramic–on–Ceramic Bearings Than Metal–on–Highly Cross–Linked Polyethylene Bearings: A 10– to 14–Year Follow–Up Study.	The Journal of arthroplasty.2016 Jun;31(6):1246–1250	Original Article
85	Ono Y, Woodmass JM, Bois AJ 他	整形外科	Arthroscopic Repair of Articular Surface Partial–Thickness Rotator Cuff Tears: Transtendon Technique versus Repair after Completion of the Tear–A Meta–Analysis.	Adv Orthop.2016 July (オンライン)	Review

86	Oda T, Sakai T, Hiraiwa H 他	整形外科	Osteoarthritis-derived chondrocytes are a potential source of multipotent progenitor cells for cartilage tissue engineering.	Biochem Biophys Res Commun.2016 Oct;479(3):469-475	Original Article
87	Ono Y, Dávalos Herrera DA, Woodmass IM 他	整形外科	Can Grafts Provide Superior Tendon Healing and Clinical Outcomes After Rotator Cuff Repairs?: A Meta-analysis.	Orthop J Sports Med.2016 Dec (オンライン)	Review
88	Ono Y, Dávalos Herrera DA, Woodmass IM 他	整形外科	Graft Augmentation Versus Bridging for Large to Massive Rotator Cuff Tears: A Systematic Review.	Arthroscopy.2017 Mar;3(3):673-680	Review
89	Ono Y, Sakai T, Carroll MJ 他	整形外科	Tears of the Subscapularis Tendon: A Critical Analysis Review	JBJS Rev.2017 Mar (オンライン)	Review
90	Yamamoto M, Murakami Y, Iwatsuki K 他	手の外科	Feasibility of four-dimensional preoperative simulation for elbow debridement arthroplasty.	BMC Musculoskelet Disord.2016 Apr;17:144	Original Article
91	Tatebe M, Koh S, Hirata H	手の外科	Long-term outcomes of radial osteotomy for the treatment of Kienböck disease.	J Wrist Surg.2016 May;5:92-97	Original Article
92	Tatebe M, Hirata H, Tanaka K 他	手の外科	Scaphoid nonunion with carpal ligament injury - radiological, arthroscopical assessment and clinical results.	Acta Orthop Belg.2016 Aug;82:210-215	Original Article
93	Tatebe M, Iwatsuki K, Hirata H 他	手の外科	Effects of depression and inflammatory factors on chronic conditions of the wrist.	Bone Joint J.2016 Jul;98-B(7):961-968	Original Article
94	Iwatsuki K, Yoshida A, Shinohara T 他	手の外科	Recovery function of somatosensory evoked brain response in patients with carpal tunnel syndrome: A magnetoencephalographic study.	Clin Neurophysiol.2016 Aug;127(8):2733-2738	Original Article
95	Akane M, Iwatsuki K, Tatebe M 他	手の外科	Anterior interosseous nerve and posterior interosseous nerve involvement in neuralgic amyotrophy	Clin Neurol Neurosurg.2016 Dec;151:108-112	Original Article
96	Oyama S, Shimoda S, Alnajjar FS 他	手の外科	Biomechanical Reconstruction Using the Tacit Learning System: Intuitive Control of Prosthetic Hand Rotation	Front Neurobot .2016 Nov (オンライン)	Original Article
97	Kurimoto S, Kato S, Nakano T 他	手の外科	Transplantation of embryonic motor neurons into peripheral nerve combined with functional electrical stimulation restores functional muscle activity in the rat sciatic nerve transection model.	J Tissue Eng Regen Med.2016 Oct;10(10):E477-E484	Original Article
98	Hirata H, Tanaka K, Sakai A 他	手の外科	Efficacy and safety of collagenase Clostridium histolyticum injection for Dupuytren's contracture in non-Caucasian Japanese patients (CORD-J Study): the first	J Hand Surg Eur Vol.2016 Jun;6: pii: 1753193416653249	Original Article

99	Yoneda H, Iwatsuki K, Hara T 他	手の外科	Interindividual anatomical variations affect the plate-to-bone fit during osteosynthesis of distal radius fractures.	J Orthop Res.2016 Jun;34(6):953-60	Original Article
100	Nishizuka T, Iwatsuki K, Kurimoto S 他	手の外科	Efficacy of a forearm band in addition to exercises compared with exercises alone for lateral epicondylitis: A multicenter, randomized, controlled trial.	J Orthop Sci.2017 Mar;22(2):289-294	Original Article
101	Ishii H, Iwatsuki K, Tatebe M 他	手の外科	Multi-center rater-blinded study of early intervention with the Hand Incubator for breast cancer-related lymphedema (the BEAT-EDEMA trial): Proposal of a research protocol.	Nagoya J Med Sci.2017 Feb;79(2):221-227	Original Article
102	Utsumi F, Kajiyama H, Nakamura K 他	産婦人科	Variable susceptibility of ovarian cancer cells to non-thermal plasma-activated medium.	Oncology Reports.2016 Jun(オンライン)	Original Article
103	Ishida C, Mori M, Nakamura K 他	産婦人科	Non-thermal plasma prevents progression of endometriosis in mice.	Free Radic Res.2016 Oct (オンライン)	Original Article
104	Ushida T, Kotani T, Tsuda H 他	産婦人科	Molecular hydrogen ameliorates several characteristics of preeclampsia in the Reduced Uterine Perfusion Pressure (RUPP) rat model	Free radical Biology and Medicine.2016 Dec(オン ライン)	Original Article
105	Iwase T, Kobayashi M, Yamamoto K, 他	眼科	Effects of photocoagulation on ocular blood flow in patients with severe non-proliferative diabetic retinopathy.	PLoS One.2017 Mar(オン ライン)	Original Article
106	Kominami T, Ueno S, Okado S, 他	眼科	Contributions of second- and third-order retinal neurons to cone electroretinograms after loss of rod function in rhodopsin P347L transgenic rabbits.	Invest Ophthalmol Vis Sci.2017 Mar;58(3):1417- 1424	Original Article
107	Takayama K, Kaneko H, Ueno S, 他	眼科	Evaluation of short-term outcomes of intravitreal aflibercept injections for age-related macular degeneration using focal macular electroretinography	Retina.2017 Mar;37(3):553-560	Original Article
108	Takayama K, Kaneko H, Kataoka K, 他	眼科	Short-term focal macular electroretinogram of eyes treated by aflibercept & photodynamic therapy for polypoidal choroidal vasculopathy	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.2017 Mar;255(3):449-455	Original Article
109	Fukami M, Iwase T, Yamamoto K, 他	眼科	Changes in retinal microcirculation after intravitreal ranibizumab injection in eyes with macular edema secondary to branch retinal vein occlusion	Invest Ophthalmol Vis Sci.2017 Feb;58(2):1246- 1255	Original Article
110	Tsunekawa T, Kaneko H, Takayama K, 他	眼科	Correlation between miR-148 expression in vitreous and severity of rhegmatogenous retinal detachment	Biomed Res Int.2017 Feb (オンライン)	Original Article
111	Okumura Y, Takai Y, Yasuda S, 他	眼科	Bilateral lacrimal caruncle lesions	Nagoya J Med Sci.2017 Feb;79(1):85-90	Original Article

112	Takayama K, Kaneko H, Kachi S, 他	眼科	High-dose intravenous pulse steroid therapy for optic disc swelling and subretinal fluid in non-arteritic anterior ischemic optic neuropathy	Nagoya J Med Sci.2017 Feb;79(1):103-108	Original Article
113	Kaneko H, Asami T, Sugita T, 他	眼科	Better Visual Outcome by Intraocular Lens Ejection in Geriatric Patients with Ruptured Ocular Injuries	PLoS One.2017 Jan(オンライン)	Original Article
114	Matsuura T, Takayama K, Kaneko H, 他	眼科	Nutritional supplementation inhibits the increase in serum malondialdehyde in patients with wet age-related macular degeneration	Oxid Med Cell Longev.2017;2017 Jan:9548767	Original Article
115	Ueno S, Nakanishi A, Kominami T, 他	眼科	In vivo imaging of a cone mosaic in a patient with achromatopsia associated with a GNAT2 variant.	Jpn J Ophthalmol.2017 Jan;61(1):92-98	Original Article
116	Takayama K, Ito Y, Kaneko H, 他	眼科	Comparison of indocyanine green angiography and optical coherence tomographic angiography in polypoidal choroidal vasculopathy	Eye (Lond).2017 Jan;31(1):45-52	Original Article
117	Takayama K, Kaneko H, Sugita T, 他	眼科	One-Year Outcomes of 1 + pro re nata versus 3 + pro re nata intravitreal aflibercept injection for neovascular age-related macular degeneration	Ophthalmologica.2017 Feb;237(2):105-110	Original Article
118	Mokuno K, Asami T, Nonobe N, 他	眼科	Effect of blue light-filtering intraocular lens on color vision in patients with macular diseases after vitrectomy	Int Ophthalmol.2016 Dec;36(6):829-839	Original Article
119	Yamamoto K, Iwase T, Terasaki H	眼科	Long-term changes in intraocular pressure after vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment, epiretinal membrane, or macular hole	PLoS One.2016 Nov(オンライン)	Original Article
120	Iwase T, Kobayashi M, Yamamoto K, 他	眼科	Changes in blood flow on optic nerve head after vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment	Invest Ophthalmol Vis Sci.2016 Nov;57(14):6223-6233	Original Article
121	Iwase T, Ra E, Asami T, 他	眼科	Pyramidal-shaped residual subretinal fluid at fovea after intravitreal injection of perfluoro-n-octane in eyes with fovea-off rhegmatogenous retinal detachment	Retina.2016 Nov;36(11):e108-e110	Original Article
122	Asami T, Kaneko H, Miyake K, 他	眼科	An endovascular cannulation needle with an internal wire for the fragmentation of thrombi in retinal vein occlusion	Transl Vis Sci Technol.2016 Sep(オンライン)	Original Article
123	Iwase T, Yamamoto K, Kobayashi M, 他	眼科	What ocular and systemic variables affect choroidal circulation in healthy eyes	Medicine (Baltimore).2016 Oct(オンライン)	Original Article
124	Takayama K, Ito Y, Kaneko H, 他	眼科	Cross-sectional pupillographic evaluation of relative afferent pupillary defect in age-related macular degeneration	Medicine (Baltimore).2016 Sep(オンライン)	Original Article
125	Nagasaka Y, Ito Y, Ueno S, 他	眼科	Increased aqueous flare is associated with thickening of inner retinal layers in eyes with retinitis pigmentosa	Sci Rep.2016 Sep(オンライン)	Original Article

126	Iwase T, Yamamoto K, Yanagida K, 他	眼科	Change in refraction after lens-sparing vitrectomy for rhegmatogenous retinal detachment and epiretinal membrane	Medicine (Baltimore).2016 Aug (オンライン)	Original Article
127	Nakanishi A, Ueno S, Hayashi T, 他	眼科	Clinical and genetic findings of autosomal recessive bestrophinopathy in Japanese cohort	Am J Ophthalmol.2016 Aug;168:86-94	Original Article
128	Asami T, Terasaki H, Ito Y, 他	眼科	Development of a fiber-optic optical coherence tomography probe for intraocular use	Invest Ophthalmol Vis Sci.2016 Jul;57(9):OCT568-574	Original Article
129	Takayama K, Kaneko H, Hwang SJ, 他	眼科	Increased ocular levels of microRNA-148a in cases of retinal detachment promote epithelial- mesenchymal transition	Invest Ophthalmol Vis Sci.2016 May;57(6):2699-2705	Original Article
130	Kominami A, Ueno S, Kominami T, 他	眼科	Restoration of cone interdigitation zone associated with improvement of focal macular ERG after fovea-off rhegmatogenous retinal reattachment	Invest Ophthalmol Vis Sci.2016 Apr;57(4):1604-1611	Original Article
131	Takayama K, Kaneko H, Kataoka K, 他	眼科	Nuclear factor (erythroid-derived)-related factor 2-associated retinal pigment epithelial cell protection under blue light-induced oxidative stress.	Oxid Med Cell Longev.2016 Sep (オンライン)	Original Article
132	Aleksic B, Ozaki N	精神科・親と子どもの心療科	Schizophrenia polygenic risk score and prepubertal developmental impairments	Lancet Psychiatry.2017 Jan;4(1):7-8	Others
133	Iritani S, Sekiguchi H, Habuchi C 他	精神科・親と子どもの心療科	Catecholaminergic neuronal network dysfunction in the frontal lobe of a genetic mouse model of schizophrenia	Acta Neuropsychiatr.2016 Apr;28(2):117-23	Original Article
134	Iwamoto K, Fujishiro H, Ozaki N 他	精神科・親と子どもの心療科	Effect of aripiprazole augmentation for depressive symptoms changes with progression of Lewy body disease	Psychiatry Clin Neurosci.2017 Jan;71(1):74-75	Original Article
135	Kimura H, Wang C, Ishizuka K 他	精神科・親と子どもの心療科	Identification of a rare variant in CHD8 that contributes to schizophrenia and autism spectrum disorder susceptibility	Schizophr Res.2016 Dec;178(1-3):104-106	Original Article
136	Kushima I, Aleksic B, Nakatochi M 他	精神科・親と子どもの心療科	High-resolution copy number variation analysis of schizophrenia in Japan	Mol Psychiatry.2017 Mar;22(3):430-440	Original Article
137	Sekiya Y, Okuno Y, Muramatsu H 他	小児科	JAK2, MPL, and CALR mutations in children with essential thrombocythemia.	Int J Hematol.2016 Aug;104(2):266-7	Letter
138	Elmahdi S, Hama A, Manabe A 他	小児科	A Cytokine-Based Diagnostic Program in Pediatric Aplastic Anemia and Hypocellular Refractory Cytopenia of Childhood.	Pediatr Blood Cancer.2016 Apr;63(4):652-8	Others
139	Natsume J, Ogawa C, Fukasawa T 他	小児科	White Matter Abnormality Correlates with Developmental and Seizure Outcomes in West Syndrome of Unknown Etiology.	American Journal of Neuroradiology / Williams & Wilkins.2016 Apr;37(4):698-705	Original Article

140	Sekiya Y, Xu Y, Muramatsu H 他	小児科	Clinical utility of next-generation sequencing-based minimal residual disease in paediatric B-cell acute lymphoblastic leukaemia.	Br J Haematol.2017 Jan;176(2):248-257	Others
141	Muramatsu Y, Tokita Y, Mizuno S 他	小児科	Disparities in visuo-spatial constructive abilities in Williams syndrome patients with typical deletion on chromosome 7q11.23.	Brain Dev.2017 Feb;39(2):145-53	Original Article
142	Natsume J, Hamano SI, Iyoda K 他	小児科	New guidelines for management of febrile seizures in Japan.	Brain Dev.2017 Jan;39(1):2-9.	Review
143	Elmahadi S, Muramatsu H, Kojima S	小児科	Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for dyskeratosis congenita.	Curr Opin Hematol.2016 Nov;23(6):501-507	Others
144	Mikrogeorgiou A, Sato Y, Kondo T 他	小児科	Dedifferentiated Fat Cells as a Novel Source for Cell Therapy to Target Neonatal Hypoxic-Ischemic Encephalopathy.	Developmental Neuroscience .2017 Mar;39(1-4):273-286	Original Article
145	Narita A, Kojima S	小児科	Biomarkers for predicting clinical response to immunosuppressive therapy in aplastic anemia.	Int J Hematol .2016 Aug;104(2):153-8	Review
146	Kojima D, Wang X, Muramatsu H 他	小児科	Application of extensively targeted next-generation sequencing for the diagnosis of primary immunodeficiencies.	J Allergy Clin Immunol.2016 Jul;138(1):303-305	Others
147	Kojima D, Muramatsu H, Okuno Y 他	小児科	Successful T-cell reconstitution after unrelated cord blood transplantation in a patient with complete DiGeorge syndrome.	J Allergy Clin Immunol.2016 Nov;138(5):1471-1473	Others
148	Takeichi T, Togawa Y, Okuno Y 他	小児科	A newly revealed IL36RN mutation in sibling cases complements our IL36RN mutation statistics for generalized pustular psoriasis.	J Dermatol Sci.2017 Jan;85(1):58-60	Case Report
149	Ito Y, Suzuki M, Kawada J 他	小児科	Diagnostic values for the viral load in peripheral blood mononuclear cells of patients with chronic active Epstein-Barr virus disease.	J Infect Chemother.2016 Apr;22(4):268-71	Original Article
150	Kawashima N, Kawada JI, Nishikado Y 他	小児科	Abnormal urinalysis on day 7 in patients with IgA vasculitis (Henoch-Schönlein purpura).	Nagoya J Med Sci .2016 Dec;78(4):359-368	Others
151	Ando S, Kawada JI, Watanabe T 他	小児科	Tofacitinib Induces G1 Cell-Cycle Arrest and Inhibits Tumor Growth in Epstein-Barr Virus-Associated T and Natural Killer Cell Lymphoma Cells.	Oncotarget.2016 Nov(オンライン)	Original Article
152	Elmahdi S, Muramatsu H, Narita A 他	小児科	Markedly High Plasma Thrombopoietin (TPO) Level isa Predictor of Poor Response to Immunosuppressive Therapy in Children With Acquired Severe Aplastic Anemia.	Pediatr Blood Cancer .2016 Apr;63(4):659-64	Others

153	Muramatsu Y, Ito M, Oshima T 他	小児科	Hydrogen-rich water ameliorates bronchopulmonary dysplasia (BPD) in newborn rats.	Pediatr Pulmonol.2016 Sep;51(9):928-35	Original Article
154	Kawada J, Okuno Y, Torii Y 他	小児科	Identification of Viruses in Cases of Pediatric Acute Encephalitis and Encephalopathy Using Next-Generation Sequencing.	Sci Rep.2016 Sep (オンライン)	Original Article
155	Nozomu Kawashima, Yuko Sekiya, Atsushi Narita 他	小児科	Kampo patterns and radiology in children receiving choreito for hemorrhagic cystitis after hematopoietic stem cell transplantation.	Trad Kampo Med .2016 Jun;3(2):136-44	Original Article
156	Yokota K, Matsumoto T, Murakami Y 他	皮膚科	Three-dimensional modeling and printing facilitate preoperative simulation and planning in skin surgery.	J Dermatol.2016 Dec;43(12):1450-1451	Letter
157	Yokota K, Matsumoto T, Murakami Y 他	皮膚科	Ultrasound-guided peripheral nerve blocks are useful for resections of malignant skin tumors on the leg.	Eur J Dermatol.2017 Feb;27(1):70-72	Letter
158	Yokota K, Matsumoto T, Murakami Y 他	皮膚科	Pectoral nerves blocks are useful for axillary sentinel lymph node biopsy in malignant tumors on the upper extremities.	Int J Dermatol.2017 Mar (オンライン)	Letter
159	Ogawa-Momohara M, Muro Y, Hirashiki A 他	皮膚科	Ortner's syndrome caused by pulmonary arterial hypertension associated with mixed connective tissue disease.	Clin Exp Rheumatol.2016 Nov;34(6):1125	Letter
160	Murase C, Muro Y, Nakanishi H 他	皮膚科	A patient with Parkinson's disease and dermatomyositis with serum anti-transcriptional intermediary factor 1- γ antibody.	Eur J Dermatol .2016 Dec;26(6):617-618	Letter
161	Muro Y, Sugiura K, Akiyama M	皮膚科	Cutaneous manifestations in dermatomyositis: key clinical and serological features-a comprehensive review.	Clin Rev Allergy Immunol .2016 Dec;51(3):293-302	Review
162	Murase C, Muro Y, Akiyama M	皮膚科	Rapid increase of serum anti-MDA-5 antibodies and exacerbation of clinically amyopathic dermatomyositis/interstitial lung disease.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2017 Jan (オンライン)	Letter
163	Kono M, Matsumoto F, Suzuki Y 他	皮膚科	Dyschromatosis symmetrica hereditaria and Aicardi-Goutières syndrome 6 are phenotypic variants caused by ADAR1 mutations.	J Invest Dermatol.2016 Apr;136(4):875-878	Letter
164	Ogawa Y, Kono M, Tsujikawa M 他	皮膚科	IgE-independent pathophysiology of severe atopic dermatitis demonstrated in an IgE-deficient patient	J Dermatol Sci.2016 May;82(2):139-141	Letter
165	Kono M, Hasegawa-Murakami Y, Sugiura K 他	皮膚科	A 45-year-old woman with Ehlers-Danlos syndrome caused by dermatan 4-O-sulfotransferase-1 deficiency: implications of dermatan sulfate depletion on early aging.	Acta Derm Venereol.2016 Aug;96(6):830-831	Case Report

166	Sekiya A, Kono M, Tsujiuchi H 他	皮膚科	Compound heterozygotes for flaggrin gene mutations do not always show severe atopic dermatitis.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2017 Jan;31(1):158-162	Original Article
167	Takeichi T, Togawa Y, Okuno Y 他	皮膚科	A newly revealed IL36RN mutation in sibling cases complements our IL36RN mutation statistics for generalized pustular psoriasis.	J Dermatol Sci.2017 Jan;85(1):58-60	Letter
168	Kono M, Fukai K, Omura R 他	皮膚科	A case of epidermolytic ichthyosis showing a very mild phenotype due to a novel tail extension mutation in KRT10.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2017 Feb(オンライン)	Letter
169	Kono M, Nishida K, Takeichi T 他	皮膚科	Ripple-pattern lichen amyloidosis in a case of ichthyosis vulgaris with a novel FLG mutation.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2017 Feb(オンライン)	Letter
170	Kono M, Fukai K, Shimizu N 他	皮膚科	Punctate Palmoplantar Keratoderma Type I with a Novel AAGAB Frameshift Mutation: intrafamilial phenotype variation due to ageing.	J Eur Acad Dermatol Venereol.2017 Mar(オンライン)	Letter
171	Ogawa Y, Akiyama M.	皮膚科	Non-infectious Panniculitis during Hydroxyurea Therapy in a Patient with Myeloproliferative Disease.	Acta Derm Venereol.2016 May;96(4):566-567	Case Report
172	Takeichi T, Sugiura K, Nomura T 他	皮膚科	Pityriasis Rubra Pilaris Type V as an Autoinflammatory Disease by CARD14 Mutations.	JAMA Dermatol.2017 Jan;153(1):66-70	Original Article
173	Murase C, Ogawa Y, Yamamoto A 他	皮膚科	Epstein-Barr Virus-associated Natural Killer/T-cell Lymphoma in a Patient Receiving Therapy with Anti-Tumour Necrosis Factor and Thiopurine.	Acta Derm Venereol.2017 Feb;97(2):273-274	Case Report
174	Takeichi T, Sugiura K, Hsu CK 他	皮膚科	Erythrokeratoderma Variabilis Caused by p.Gly45Glu in Connexin 31: Importance of the First Extracellular Loop Glycine Residue for Gap Junction Function.	Acta Derm Venereol.2016 May;96(4):557-559	Case Report
175	Takeichi T, Liu L, Abdul- Wahab A 他	皮膚科	Large Intragenic KRT1 Deletion Underlying Atypical Autosomal Dominant Keratinopathic Ichthyosis.	J Invest Dermatol.2016 Oct;136(10):2095-2098	Letter
176	Takeichi T, Sugiura K, Nakamura Y 他	皮膚科	Darier's Disease Complicated by Schizophrenia Caused by a Novel ATP2A2 Mutation.	Acta Derm Venereol.2016 Nov;96(7):993-994	Case Report
177	Takeichi T, Nanda A, Yang HS 他	皮膚科	Syndromic inherited poikiloderma due to a de novo mutation in FAM111B.	Br J Dermatol.2017 Feb;176(2):534-536	Letter
178	Funahashi Y, Kato M, Fujita T 他	泌尿器科	Association between the polyomaviruses titers and decoy cell positivity rates after renal transplantation	Transplant Proc.2016 Apr;48(3):921-923	Original Article

179	Matsukawa Y, Takai S, Funahashi Y 他	泌尿器科	Long-term efficacy of a combination therapy with an anticholinergic agent and an α 1-blocker for patients with benign prostatic enlargement complaining both voiding and overactive bladder symptoms:A randomized, prospective, comparative trial using a urodynamic study	Neurourol Urodyn.2017 Mar;36(3):748-754	Original Article
180	Matsukawa Y, Funahashi Y, Takai S 他	泌尿器科	Comparison of silodosin and naftopidil for efficacy in the treatment of benignprostatic enlargement complicated by overactive bladder: A randomized,prospective study (SNIPER study)	J Urol.2017 Feb;197(2):452-458	Original Article
181	Funahashi Y, Majima T, Matsukawa Y 他	泌尿器科	Intraprostatic reflux of urine induces inflammation in a rat	Prostate.2017 Feb;77(2):164-172	Original Article
182	Sone M, Yoshida T, Morimoto K 他	耳鼻咽喉科	Endolymphatic hydrops in superior canal dehiscence and large vestibular aqueduct syndromes.	Laryngoscope.2016 Jun;126:1446-1450	Original Article
183	Morimoto K, Yoshida T, Sugiura S 他	耳鼻咽喉科	Endolymphatic hydrops in patients with unilateral and bilateral Meniere's disease.	Acta Otolaryngol.2017 Jan;137:23-28	Original Article
184	Sone M, Yoshida T, Sugimoto S 他	耳鼻咽喉科	Magnetic resonance imaging evaluation of endolymphatic hydrops and post-operative findings in cases with otosclerosis.	Acta Otolaryngol.2017 Mar;137(3):242-245	Original Article
185	Yoshida T, Sugimoto S, Teranishi M 他	耳鼻咽喉科	Imaging of the endolymphatic space in patients with Ménière's disease.	Auris Nasus Larynx.2017 Feb; pii: S0385- 8146(17):30142-6	Original Article
186	Nishio N, Fujimoto Y, Hiramatsu M 他	耳鼻咽喉科	Autologous fat injection therapy including a high concentration of adipose-derived regenerative cells in a vocal fold paralysis model: animal pilot study.	J Laryngol Otol.2016 Oct;Oct;130(10):914-922	Original Article
187	Nishio N, Fuji M, Hayashi Y 他	耳鼻咽喉科	Pre-operative surgical simulation and validation of the line of resection in anterolateral craniofacial resection of advanced sinonasal sinus carcinoma.	Head Neck.2017 Mar;39(3):512-519	Original Article
188	Naganawa S, Nakane T, Kawai H 他	放射線科・放射線部	Gd-based Contrast Enhancement of the Perivascular Spaces in the Basal Ganglia.	Magn Reson Med Sci .2017 Jan;16(1):61-65	Original Article
189	Itoh Y, Kubota S, Kawamura M 他	放射線科・放射線部	A multicenter survey of stage T1 glottic cancer treated with radiotherapy delivered in 2.25-Gy fractions in clinical practice: An initial 5-year analysis.	Nagoya J Med Sci .2016 Dec;78(4):399-406	Original Article

190	Taoka T, Yasuno F, Morikawa M 他	放射線科・放射線部	Diffusion tensor studies and voxel-based morphometry of the temporal lobe to determine the cognitive prognosis in cases of Alzheimer's disease and mild cognitive impairment: Do white matter changes precede gray matter changes?	SpringerPlus .2016 Jul(オンライン)	Original Article
191	Taoka T, Kawai H, Nakane T 他	放射線科・放射線部	Application of histogram analysis for the evaluation of vascular permeability in glioma by the K2 parameter obtained with the dynamic susceptibility contrast method: Comparisons with Ktrans obtained with the dynamic contrast enhance method and cerebral blood volume.	Magn Reson Imaging .2016 Sep;34 (7) :896-901	Original Article
192	Taoka T, Fukusumi A, Miyasaka T 他	放射線科・放射線部	Structure of the Medullary Veins of the Cerebral Hemisphere and Related Disorders.	Radiographics.2017 Jan;37 (1) :281-297	Original Article
193	Iwano S, Ito R, Umakoshi H 他	放射線科・放射線部	Thoracic Temporal Subtraction Three Dimensional Computed Tomography (3D-CT): Screening for Vertebral Metastases of Primary Lung Cancers.	PLoS One .2017 Jan(オンライン)	Original Article
194	Komada T, Suzuki K, Ishiguchi H 他	放射線科・放射線部	Magnetic resonance imaging of cardiac sarcoidosis: an evaluation of the cardiac segments and layers that exhibit late gadolinium enhancement.	Nagoya J Med Sci.2016 Dec;78 (4) :437-446	Original Article
195	Kamomae T, Oita M, Hayashi N 他	放射線科・放射線部	Characterization of stochastic noise and post-irradiation density growth for reflective-type radiochromic film in therapeutic photon beam dosimetry.	Phys Med.2016 Oct;32 (10) :1314-1320	Original Article
196	Shimojima C, Takeuchi H, Jin S 他	歯科口腔外科	Conditioned medium from the stem cells of human exfoliated deciduous teeth ameliorates experimental autoimmune encephalomyelitis	Journal of Immunology.2016 May;196 (10) :4164-4171	Original Article
197	Hirata M, Ishigami M, Matsushita Y 他	歯科口腔外科	Multifaceted therapeutic benefits of factors derived from dental pulp stem cells for mouse liver fibrosis	Stem Cells Translational Medicine.2016 Oct;5(10):1416-1424	Original Article
198	Sakaguchi K, Katagiri W, Osugi M 他	歯科口腔外科	Periodontal tissue regeneration using the cytokine cocktail mimicking secretomes in the conditioned media from human mesenchymal stem cells	Biochemical and Biophysical Research Communications.2017 Feb;484 (1) :100-106	Original Article
199	Kano F, Matsubara K, Ueda M 他	歯科口腔外科	Secreted ectodomain of sialic acid-binding ig-like lectin-9 and MCP-1 synergistically regenerate transected rat peripheral nerves by altering macrophage polarity	Stem Cells.2017 Mar;35(3):641-653	Original Article
200	Nagata Y, Takeuchi K, Nagatani T 他	脳神経外科	Bilateral occlusion of the foramen of Monro after endoscopic third ventriculostomy for aqueductal stenosis—a case report	CHILDS NERVOUS SYSTEM.2016 Apr;32(4):739-743	Original Article
201	Kurimoto M, Suzuki H, Aoki K 他	脳神経外科	Rapid sensitive analysis of IDH1 mutation in lower-grade gliomas by automated genetic typing involving a quenching probe	CANCER INVESTIGATION.2016;34 (1):012-015	Original Article

202	Takeuchi K, Watanabe T, Nagatani T 他	脳神経外科	Incidence and risk factors of subdural hematoma after intraoperative cerebrospinal fluid leakage during the transsphenoidal approach. Pituitary	PITUITARY .2016 Dec;19(6):565-572	Original Article
203	Nagata Y, Takeuchi K, Kato M 他	脳神経外科	The “steppingstone” phenomenon: a new endoscopic finding in slit-ventricle syndrome.	CHILDS NERVOUS SYSTEM.2016 Nov;32(11):2265-2268	Original Article
204	Nagata Y, Takeuchi K, Kato M 他	脳神経外科	Lateral temporal encephaloceles: case-based review.	CHILDS NERVOUS SYSTEM .2016 Jun;32(6):1025-1031	Original Article
205	Muraoka S, Araki Y, Izumi T 他	脳神経外科	Cerebral Infarction and Subarachnoid Hemorrhage Caused by Central Nervous System Aspergillus Infection	WORLD NEUROSURGERY .2016 Jun (オンライン)	Original Article
206	Maesawa S, Bagarinao E, Fujii M 他	脳神経外科	Use of Network Analysis to Establish Neurosurgical Parameters in Gliomas and Epilepsy	NEUROLOGIA MEDICO- CHIRURGICA.2016 Apr;56(4):158-169	Original Article
207	Ishigaki S, Fujioka Y, Okada Y 他	神経内科	Altered Tau Isoform Ratio Caused by Loss of FUS and SFPQ Function Leads to FTL D-like Phenotypes.	Cell Rep.2017 Jan;18(5):1118	Original Article
208	Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y 他	神経内科	Decreased Peak Expiratory Flow Associated with Muscle Fiber-Type Switching in Spinal and Bulbar Muscular Atrophy.	PLoS One.2016 Dec (オンライン)	Original Article
209	Suzuki M, Nakamura T, Hirayama M 他	神経内科	Cardiac parasympathetic dysfunction in the early phase of Parkinson’s disease.	J Neurol.2017 Feb;264(2):333-340	Original Article
210	Sone J, Mori K, Inagaki T 他	神経内科	Clinicopathological features of adult-onset neuronal intranuclear inclusion disease.	Brain.2016 Dec;139:3170- 3186	Original Article
211	Koike H, Ikeda S, Takahashi M 他	神経内科	Schwann cell and endothelial cell damage in transthyretin familial amyloid polyneuropathy.	Neurology.2016 Nov;87(21):2220-2229	Original Article
212	Tanaka Y, Tsuboi T, Watanabe H 他	神経内科	Articulation Features of Parkinson’s Disease Patients with Subthalamic Nucleus Deep Brain Stimulation.	J Parkinsons Dis.2016 Oct;6(4):811-819	Original Article
213	Masuda M, Senda J, Watanabe H 他	神経内科	Involvement of the caudate nucleus head and its networks in sporadic amyotrophic lateral sclerosis-frontotemporal dementia continuum.	Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener.2016 Oct;17(7- 8):571-579	Original Article
214	Iguchi Y, Eid L, Parent M 他	神経内科	Exosome secretion is a key pathway for clearance of pathological TDP-43.	Brain.2016 Dec;139:3187- 3201	Original Article
215	Noda T, Iijima M, Noda S 他	神経内科	Gene Expression Profile of Inflammatory Myopathy with Malignancy is Similar to that of Dermatomyositis rather than Polymyositis.	Intern Med.2016 Sep;55(18):2571-2580	Original Article

216	Hijikata Y, Katsuno M, Suzuki K 他	神経内科	Impaired muscle uptake of creatine in spinal and bulbar muscular atrophy.	Ann Clin Transl Neurol.2016 Jun;3(7):537-546	Original Article
217	Nakamura T, Suzuki M, Okada A 他	神経内科	Association of leptin with orthostatic blood pressure changes in Parkinson's disease.	Mov Disord.2016 Sep;31(9):1417-1421	Original Article
218	Yokoi D, Atsuta N, Watanabe H 他	神経内科	Age of onset differentially influences the progression of regional dysfunction in sporadic amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol.2016 Jun;263(6):1129-1136	Original Article
219	Watanabe H, Atsuta N, Hirakawa A 他	神経内科	A rapid functional decline type of amyotrophic lateral sclerosis is linked to low expression of TTN.	J Neurol Neurosurg Psychiatry.2016 Aug;87(8):851-858	Original Article
220	Hibino M, Oshima H, Narita Y 他	心臓外科	Early and Late Outcomes of Thoracic Aortic Surgery in Hemodialysis Patients.	Ann Thorac Surg .2016 Oct;102(4):1282-8	Original Article
221	Yokota K, Uchida H, Tanano A 他	小児外科	Steroid pulse therapy prevents restenosis following balloon dilatation for esophageal stricture	Pediatric Surgery International.2016 Sep;32:875-879	Original Article
222	Tanaka Y, Uchida H, Kawashima H 他	小児外科	More than one-third of successfully nonoperatively treated patients with complicated appendicitis experienced recurrent appendicitis: Is interval appendectomy necessary?	Journal of Pediatric Surgery.2016 Dec;51:1957-1961	Original Article
223	Tanaka Y, Kawashima H, Mori M 他	小児外科	Contraindications and image-defined risk factors in laparoscopic resection of abdominal neuroblastoma	Pediatric Surgery International.2016 Sep;32:845-850	Original Article
224	Shirota C, Uchida H, Ono Y 他	小児外科	Long-term outcomes after revision of Kasai portoenterostomy for biliary atresia	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences.2016 Nov;23:715-720	Original Article
225	Oshima K, Uchida H, Tainaka T 他	小児外科	Left thoracoscopic two-stage repair of tracheoesophageal fistula with a right aortic arch and a vascular ring.	J Minim Access Surg.2017 Jan;13(1):73-75	Case Report
226	Wataru Sumida, Kenitiro Kaneko, Yasuyuki	小児外科	A new type of defecation disorder due to insufficient fixation of the rectum to the sacrum is improved by rectopexy: A report of three cases	Journal of Pediatric Surgery Case Reports.2016 Jun;10:10-13	Case Report
227	Sumida W, Watanabe Y, Takasu H 他	小児外科	Incidence of contralateral patent processus vaginalis in relation to age at laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for pediatric inguinal hernia.	Surgery Today.2016 Apr;46:466-70	Original Article
228	Sumida W, Watanabe Y, Takasu H 他	小児外科	Effects of insistent screening for contralateral patent processus vaginalis in laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure to prevent metachronous contralateral onset of pediatric inguinal hernia.	Surgery Today.2016 May;46:569-74	Original Article

229	Takahisa Tainaka, Yasuyuki Ono, Yasumasa	小児外科	Large retroperitoneal immature teratoma leading to renovascular hypertension.	Pediatric Surgery International.2016 Dec;58:1363-1364	Case Report
230	Tainaka T, Uchida H, Tanaka Y 他	小児外科	Comparing surgical outcomes of complete thoroscopic lobectomy for congenital cystic lung disease between neonatal and infantile patients.	Nagoya Journal of Medical Science.2016 Dec;78:447-454	Original Article
231	Shirota C, Tainaka T, Uchida H 他	小児外科	Laparoscopic resection of neuroblastomas in low- to high-risk patients without image-defined risk factors is safe and feasible.	BMC Pediatr.2017 Mar;17(1):71	Original Article
232	Tainaka T, Uchida H, Tanano A 他	小児外科	Two-Stage Thoroscopic Repair of Long-Gap Esophageal Atresia Using Internal Traction Is Safe and Feasible.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.2017 Jan;27(1):71-75	Original Article
233	Inaba M, Matsuda N, Banno H 他	救急科	In vitro reduction of antibacterial activity of tigecycline against multidrug-resistant Acinetobacter baumannii with host stress hormone norepinephrine.	Int J Antimicrob Agents.2016 Dec;48(6):680-9	Original Article
234	Matsuda N, Yamada S, Hinoshita T 他	救急科	The International Activities in Taiwan by the Joint Burn Care Assistance Team of Physicians from Japan Medical Association and Three Medical Societies.	Japan Med Assoc J.2016 Jul;59(1):12-6	Case Report
235	Matsuoka A, Maeda O, Mizutani T 他	化学療法部	Bevacizumab exacerbates paclitaxel-induced neuropathy: a retrospective cohort study.	PLoS One .2016 Dec (オンライン)	Original Article
236	Gyawali B, Shimokata T, Ando M 他	化学療法部	Risk of serious adverse events and fatal adverse events with sorafenib in patients with solid cancer: a meta-analysis of phase 3 randomized controlled trials.	Ann Oncol.2017 Feb;28(2):246-253	Original Article
237	Gyawali B, Shimokata T, Honda K 他	化学療法部	Muscle wasting associated with the long-term use of mTOR inhibitors.	Mol Clin Oncol .2016 Nov;5(5):641-646	Original Article
238	Matsuoka A, Mitsuma A, Maeda O 他	化学療法部	Quantitative assessment of chemotherapy-induced peripheral neurotoxicity using a point-of-care nerve conduction device.	Cancer Sci .2016 Oct;107(10):1453-1457	Original Article
239	Miyagawa Y, Yokoyama Y, Fukuzawa S 他	薬剤部	Risk Factors for Postoperative Delirium in Abdominal Surgery: A Proposal of a Postoperative Delirium Risk Score in Abdominal Surgery.	Dig Surg.2017;34 (2):95-102	Original Article
240	Kato H, Sassa N, Miyazaki M 他	薬剤部	Association of axitinib plasma exposure and genetic polymorphisms of ABC transporters with axitinib-induced toxicities in patients with renal cell carcinoma.	Cancer Chemother Pharmacol.2016 Oct;78 (4):855-862	Original Article
241	Inoue T, Ito S, Ando M 他	リハビリテーション部	Changes in exercise capacity, muscle strength, and health-related quality of life in esophageal cancer patients undergoing esophagectomy	BMC Sports Sci Med Rehabil .2016 Nov (オンライン)	Original Article

242	Hayashi K, Hirashiki A, Kodama A 他	リハビリテーション部	Impact of preoperative regular physical activity on postoperative course after open abdominal aortic aneurysm surgery.	Heart Vessels.2016 Apr;31(4):578-83	Original Article
243	Mizuno Y, Ito S, Hattori K 他	リハビリテーション部	Changes in Muscle Strength and Six-Minute Walk Distance Before and After Living Donor Liver Transplantation	Transpl Proc.2016 Dec; 48(10):3348-3355	Original Article

計 243件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Seitaro Terakura, Masaaki Onji, Chisako Iriyama, 他	血液内科	心臓浸潤を認めた悪性リンパ腫	臨床血液. 2017 Mar; 58(3):239-242	Case Report
2	Hirooka Y, Kawashima H, Takeyama T, 他	消化器内科	先天性胆道拡張症の診断	日本消化器病学会雑誌 . 2016 Dec;113:2016-2021	Review
3	Okaji S, Hasegawa Y	呼吸器内科	肺癌の腫瘍随伴症候群	呼吸と循環. 2016 Jun; 23529: 631-5	Review
4	Sano M, Hashimoto N, Okada Y	呼吸器内科	クリゾチニブの減感作療法により再投与が可能であった肺腺癌の1例	肺がん. 2016 Jun;56: 3215-218	Case Report

5	Natsume S	消化器外科一	胆膵疾患における血管系IVR 門脈塞栓術-適応と成績-	胆と膵. 2016 May;37:449-453	Others
6	Natsume S	消化器外科一	手術に必要な外科解剖学 胆道癌手術に必要な外科解剖	消化器外科. 2016 Jun;39:1049-1057	Others
7	Mukai T	消化器外科一	直腸癌に対する腹腔鏡下側方廓清のすべて 自律神経温存側方郭清	手術. 2016 Apr;70:633-639	Others
8	Mukai T	消化器外科一	エキスパートに聞く! 高難度内視鏡外科手術のコツ 内腸骨血管合併切除を伴う側方リンパ節郭清術のコツとピットフォール	消化器外科. 2016 Oct;39:1521-1532	Others
9	Yamaguchi T, Ebata T, Yokoyama Y 他	消化器外科一	胆管充実腺癌の3例	胆道. 2016 Nov;30:769-774	Case Report
10	Ebata T, Yokoyama Y, Sugawara G 他	消化器外科一	肝門部領域胆管癌の外科治療-新しい胆道癌取扱い規約のもとに-	胆道. 2017 Jan;30:842-849	Others
11	Kamiya T	消化器外科一	遠位膈後壁合併切除を伴う腹腔鏡下ISR	手術. 2016 Nov;70:1617-1623	Others
12	Fujibayashi T, Yabe Y, Kaneko A 他	整形外科	関節リウマチの疾患活動性別Tocilizumabの寛解率、寛解継続率の検討	中部リウマチ. 2016 May;46.1:24-26	Original Article
13	Seki T, Takegami Y, Amano T 他	整形外科	特発性大腿骨頭壊死症に対するJHEQ評価	Hip Joint. 2016 Aug;42.1:78-82	Original Article
14	T Mitake, T Kurahashi, M Tatebe	手の外科	橈骨遠位端骨折における保存的治療の短期成績に相関関係を示す項目の検討	日本手外科学会雑誌. 2016 Dec (オンライン)	Original Article

15	K Tokutake, N Okui, H Hirata	手の外科	橈骨遠位端骨折術後の屈筋腱障害の検 討-掌側突出距離測定的重要性-	日本手外科学会雑誌. 2017(オンライン)	Original Article
16	K Asano, M Yamamoto, S Kurimoto	手の外科	過伸展損傷に伴うPIP関節掌側板付着部 裂離骨折の手術治療	日本手外科学会雑誌. 2017 Feb(オンライン)	Original Article
17	K Asano, H Hiraiwa, Y Kishimoto	手の外科	上腕骨2-part外科頸開放骨折の1例	整形・災害外科. 2016 May;59:621-623	Case Report
18	K Asano, A Koyama	手の外科	上腕骨インプラント周囲骨折に対し超高 分子量ポリエチレン製ケーブルが有用で あった1例	骨折. 2016 Apr;38(2): 284-286	Original Article
19	Asami T, Shirai S, Nonobe N 他	眼科	未熟児網膜症遠隔診療システムの構築と 使用経験	眼科臨床紀要. 2016 Apr; 9(4):338-344	Original Article
20	Terasaki H	眼科	糖尿病網膜症 最近の診断と治療	糖尿病と代謝. 2016 Dec; 4(4):142-144	Review
21	Terasaki H	眼科	網膜 光干渉断層計(OCT) 術中OCT	眼科. 2016 Oct;58(11): 1286-1292	Review
22	Terasaki H	眼科	糖尿病網膜症 診断・治療の新しいアプ ローチ 網膜血管検査法を中心に	あたらしい眼科. 2017 Jan; 34(1):49-56	Review
23	Terasaki H	眼科	光干渉断層計血管撮影	日本医師会雑誌. 2017 Jan;145(10):2140	Review
24	Muramatsu H.	小児科	Genetic predisposition to pediatric myeloid malignancies.	臨床血液. 2016 Jun; 57(6):730-5	Others

25	Nakazawa Y, Suzuki S, Nishio N	小児科	Regulation of adoptive immunotherapy	臨床血液. 2016 Nov; 57(11):2373-2380	Others
26	Daisuke Nakatsubo, Yasukazu Kajita, Keitaro Yamada	小児科	DYT遺伝子異常の全身性ジストニアに対し、両側淡蒼球刺激術が有効であった1例	機能的脳神経外科. 2016 Dec;55:91-95.	Case Report
27	Yoko Sakaguchi, Hiroyuki Kidokoro, Chikako Ogawa	小児科	軟口蓋麻痺が初発症状であったGuillain-Barre症候群の1例	小児科臨床. 2017 Jan; 70:57-61.	Case Report
28	Kato T	小児科	病理組織診断でリウマチ熱による伝導路障害が死因であると疑われた1例	日小児循環器会誌. 2016 Sep(オンライン)	Case Report
29	Maeda T, Hayashi S, Matsuzawa M 他	小児科	腫瘍崩壊症候群を契機に肝芽腫の診断に至った18トリソミー	日本小児科学会雑誌. 2016 Sep;120巻7号: 1081-1086	Case Report
30	Kojima D, Sugiyama Y, Muramatsu H 他	小児科	TREC定量による重症複合免疫不全症の新生児マスキング	日本小児科学会雑誌. 2016 Jul;120巻10号: 1462-1467	Original Article
31	Yuji Ito, Kiyokuni Miura, Shinya Hara	小児科	豊田市における重度肢体不自由児の救急外来受診と入院医療の現状	日本小児科学会雑誌. 2016 Sep;120(9):1356- 1363.	Original Article
32	Santo Y.Matsumoto T.Yokota K. 他	皮膚科	【鑑別に苦慮した皮膚病(1)】<臨床例>乳房Paget病と鑑別を要したpagetoid Bowen病	皮膚病診療. 2016 Aug; 38(4):391-394	Case Report
33	Takeichi T.Akiyama M.Okuyama R.他	皮膚科	【似たもの同士:目で見える鑑別診断2016-水疱性病変編】(Part4.)下肢(case 19) アミロイドーシスvs虫刺症vs皮膚白血病vs浮腫による水疱	Visual Dermatology. 2016 Jun;15(7):731-734	Review
34	Nishio N, Fujimoto Y, Sone M	耳鼻いんこう科	頭蓋底手術における3Dシミュレーション	耳鼻咽喉科臨床. 2016 Dec;第109巻12号:830- 831	Original Article

35	Shinji Naganawa	放射線科・放射線部	IV ISMRMから読み解くMRI最新動向 1. 臨床の視点から見たISMRM2016のトピックス—頭頸部領域を中心に	INNERVISION. 2016 Aug; 31 (9) :66-68	Original Article
36	Shinji Naganawa	放射線科・放射線部	2017年最新医療機器の動向を探る	月間新医療データブック・シリーズ 医療機器システム白書 . 2016 Oct;2017: 14-17	Original Article
37	Shinji Naganawa	放射線科・放射線部	脳の老廃物排泄機構	健康文化. 2016 Dec;51: 149	Original Article
38	Yoshiyuki Ito	放射線科・放射線部	がん治療における放射線治療の役割 その2:放射線治療は局所治療だけか?	健康文化. 2016 Dec;51: 116	Original Article
39	Hiroko Satake	放射線科・放射線部	序説【特集】知っておきたい乳房の画像診断	臨床画像. 2016 May;32 (6) :579	Original Article
40	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	特集:脳機能解剖の多次元解析 磁気共鳴拡散画像の進歩	脳神経外科ジャーナル. 2016 Apr;25 (5) :402-409	Original Article
41	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	拡散画像でわかること:これまでとこれから	映像情報メディカル. 2016 Jun;48 (6) :54-55	Original Article
42	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	最先端3T MRIによる新しい展開	INNERVISION. 2016 Jun; 31 (7) :72-73	Original Article
43	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	転移性脳腫瘍	画像診断. 2016 Oct;36 (13) :1303-1313	Original Article
44	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	これでわかった!そこが知りたい!頭部CT, MRI読み方のコツ	レジデント. 2016 Dec; 9(12):5	Original Article

45	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	CT, MRI画像の成り立ちと、頭部画像解剖のエッセンス	レジデント. 2016 Dec; 9(12):7-15	Original Article
46	Toshiaki Taoka	放射線科・放射線部	この画像から診断！外来受診での神経外傷・脳血管障害	レジデント. 2016 Dec; 9(12):16-25	Original Article
47	Kojiro Suzuki, Hiroyasu Umakoshi, Ken Nagasaka 他	放射線科・放射線部	胆膵疾患における血管系IVR	胆と膵. 2016 Jun;37: 419-425	Original Article
48	Takashi Nihashi, Akihiko Terasawa	放射線科・放射線部	EBMでみる鑑別診断に使う検査の臨床研究(2):結果のいろいろな評価方法	健康文化. 2016 Dec;51: 164	Original Article
49	Satoko Ishigaki	放射線科・放射線部	非浸潤性乳管癌・浸潤性乳管癌—BI-RADSによる診断法—	臨床画像. 2016 May;32 (6):603-612	Original Article
50	Kana Kimura, Toru Okada, Yoshiyuki Ito	放射線科・放射線部	早期声門癌に対する喉頭温存を考慮した治療法の確立に関する研究	健康文化. 2016 Dec;51: 170	Original Article
51	Toshiki Nakane	放射線科・放射線部	小児のCT, MRI:大人とどう違うのか？	レジデント. 2016 Dec; 9(12):110-119	Original Article
52	Hibi H	歯科口腔外科	顎関節症に対する運動療法の短期的効果—非復位性関節円板前方転位に対する予備的検討—	日本顎関節学会雑誌. 2016 Oct;28(2):126-134	Original Article
53	Yuzuru Kmaei	形成外科	鳩胸	小児外科. 2017 Jan;49・ 1:68-69	Original Article
54	Yuzuru Kmaei	形成外科	【わが国の形成外科とその進歩】四肢の形成外科の現状	日本医師会雑誌. 2016 Jun;145・3:501-504	Original Article

55	Yutaka Nakamura, Keisuke Takanari, Yuzuru Kamei 他	形成外科	神経線維腫の外科的治療 巨大神経線維腫切除時にLigaSureの使用が有用であった1例	日本レックリングハウゼン病学会雑誌. 2016 Apr; 7・1:18-23	Original Article
56	Miki Kanbe, Yuzuru Kamei, Keisuke Takanari 他	形成外科	後天性血友病Aに合併した膿胸の治療経験	創傷. 2016 Jun (オンライン)	Case Report
57	Uchida H	小児外科	小児内視鏡手術の現在と未来	日本外科学会雑誌. 2016;117・4:324-328	Review
58	Aya Iseki, Sakae Hata, Harumi Kobayashi 他	病理部	Collagenous spherulosisを認めた乳腺疾患の1例	日本臨床細胞学会雑誌. 2016 Nov;55巻6号:406-411	Case Report
59	Matsuda N	救急・集中治療医学	菌血症診断におけるプロカルシトニンの有効性の検討	日本集中治療医学会雑誌. 2017 Mar;24:115-20	Original Article
60	Higashi M	救急・集中治療医学	経腸栄養における超音波の役割	INTENSIVIST. 2017 Jan; 9:144-7	Review
61	Hatsue Kume, Masayuki Miyazaki, Ai Maeda 他	薬剤部	オキシコドン誘発悪心・嘔吐に対する予防的制吐薬の使用状況とその効果.	日本緩和医療薬学雑誌. 2016 Sep;9:75-80	Original Article
62	Yoshimasa Nagao	医療の質・安全管理部	外科医に求められる医療安全-医療事故調査制度の開始にあたって	日本外科学会雑誌. 2016;117:562-564	Review
63	Yoshimasa Nagao, Akira Fukushima, Ynmi Wakita	医療の質・安全管理部	ばらつきを生まない医療事故調査手法の開発-医療事故調査制度導入後の課題に対応するために	患者安全推進ジャーナル. 2016 Dec;46:74-79	Review

計 67件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会業務（利益相反マネジメント、試料等の保管、対応表の管理、有害事象、審査受託、教育等）及び 研究者の申請についての手順・方法等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年38回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、教職員等の責務、委員会の組織等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
・ 研修の主な内容 臨床研究を実施するための心構え、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について、研究公正性を確保するために何をすべきか、臨床介入研究と患者申出療養制度等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乗せされる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	159人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
佐藤 寿一	総合診療科	講師	31年	
葛谷 雅文	老年内科	教授	34年	
清井 仁	血液内科	教授	31年	
室原 豊明	循環器内科	教授	32年	
有馬 寛	糖尿病・内分泌内科	教授	29年	
丸山 彰一	腎臓内科	教授	28年	
勝野 雅央	神経内科	教授	22年	
長谷川 好規	呼吸器内科	教授	37年	
椰野 正人	消化器外科一	教授	38年	
小寺 泰弘	消化器外科二	教授	32年	
古森 公浩	血管外科	教授	35年	
小倉 靖弘	移植外科	教授	26年	
菊森 豊根	乳腺・内分泌外科	講師	28年	
碓氷 章彦	心臓外科	教授	36年	
横井 香平	呼吸器外科	教授	39年	
亀井 譲	形成外科	教授	32年	
内田 広夫	小児外科	教授	28年	
西脇 公俊	麻酔科	教授	33年	
高橋 義行	小児科	教授	25年	
吉川 史隆	産科婦人科	教授	36年	
尾崎 紀夫	精神科	教授	35年	
石黒 直樹	整形外科	教授	37年	
寺崎 浩子	眼科	教授	37年	
秋山 真志	皮膚科	教授	31年	
後藤 百万	泌尿器科	教授	37年	
曾根 三千彦	耳鼻いんこう科	教授	30年	
長縄 慎二	放射線科	教授	30年	
若林 俊彦	脳神経外科	教授	36年	

松田 直之	救急科	教授	24 年
日比 英晴	歯科口腔外科	教授	30 年
中村 栄男	病理部	教授	38 年
八木 哲也	中央感染制御部	教授	29 年
安藤 雄一	化学療法部	教授	27 年
清井 仁	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	教授	31 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【看護部】

看護部では、論理的思考過程を養い、専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指し研修、教育を実施している。

新人には卒後臨床研修制度を実施し、外科系、内科系の2部署をローテーションすることで、確実な知識と技術を習得し、実践できる看護師の育成を目指している。

特に、フィジカルアセスメントを中心としたsaving lifeナース育成研修を実施し、患者の変化に早期に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師の育成を目指している。

【医療技術部】

JCI認証取得にむけて、取得病院長の講演による研修

・研修の期間・実施回数

【看護部】

平成28年4月～平成29年3月、44のプログラム、延べ20,331時間

【医療技術部】

平成29年2月23日（木）16:30～19:30 1回

・研修の参加人数

【看護部】

延べ3770人

【医療技術部】

108名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【臨床研究セミナー】

臨床研究を担う人材の育成を目的とし、先端医療・臨床研究支援センターが毎月1,2回程度開催している。臨床研究に従事する職員（医師及び歯科医師も含む）、研究者、大学院生等を対象としている。講習内容は毎回異なり、法規、知財、モニタリング等、多岐に渡るテーマでセミナーを実施している。

・研修の期間・実施回数

1セミナーにつき1時間半。

平成28年度はのべ21回開催した。（DVD上映でのセミナー8回を含む）

・研修の参加人数

平成28年度はのべ2,803名が受講した。（DVDでの受講者564名を含む）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 石黒 直樹
管理担当者氏名	副病院長、医療の質・安全管理部長 長尾 能雅 病院長補佐、メディカルITセンター長 白鳥 義宗 病院長補佐、薬剤部長 山田 清文 総務課長 安田 浩明 医事課長 坪井 信治

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	中央管理	
		処方せん	中央管理	
		手術記録	中央管理	
		看護記録	中央管理	
		検査所見記録	中央管理	
		エックス線写真	中央管理	
		紹介状	中央管理	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課, 医事課	
		高度の医療の研修の実績	人事労務課	
		閲覧実績	総務課, 医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理部
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況			医療の質・安全管理部	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			医療の質・安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理部	

・疾病分類
ICD-10

・管理形態
外来カルテ・入院カルテ
1患者1電子カルテで
中央管理(一部紙媒体にて保存)

・持ち出しに関する取扱い
エックス線写真の持ち出しは、名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項第12及び第13のと通りの取扱とする。(別添参照)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医療の質・安全管理部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質・安全管理部
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一号	医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
	第二号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課, 臨床工学技術部
	第三号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課, 臨床工学技術部
第四号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療の質・安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質・安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	メディカルITセンター
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	先端医療・臨床研究支援センター 医薬品安全管理部門
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室
		職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項

(趣旨)

第1 名古屋大学医学部附属病院（以下「病院」という。）における病歴等の管理については、この要項の定めるところによる。

(目的)

第2 病歴等の管理は、医学部、大学院医学系研究科及び本院（以下「病院等」という。）における診療・教育及び研究に資することを目的とする。

(定義)

第3 この要項において病歴等とは、本院の患者に係る診療録、X線フィルム及びそれらの付属書類（以下「診療録等」という。）をいう。

(退院時要約の作成)

第4 全診療科において医師は、全退院患者についての退院時要約を作成する。

2 退院時要約の作成は、退院後14日以内とする。

(プライバシーの確保)

第5 病院等の職員及び診療録等の閲覧又は貸出（以下「閲覧等」という。）を希望する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 診療情報の秘密保護に関する事項
- 二 患者情報等の秘密保護に関する事項
- 三 複写の禁止に関する事項
- 四 データの保護に関する事項
- 五 その他診療録等の情報管理に関する事項

(診療録等の管理区分)

第6 診療録等の管理は、メディカルITセンター病歴管理部門（以下「病歴管理部門」という。）が行う。ただし、通院中の外来患者に係る電子媒体に記録された診療録以外の診療録等（以下「外来診療録等」という。）は病歴管理部門が管理し、入院中の患者に係る電子媒体に記録された診療録以外の診療録等は、各病棟が管理する。

2 電子媒体上に記録されていない、他院で記載された診療情報提供書等の診療情報及び本院において指定用紙等に記載された、証明書等（診断書、証明書、同意書等）については、電子媒体上に取込み後、原本を保管する。

(診療録等の管理責任者)

第7 診療録等を適正に管理するため、診療録等管理責任者（以下「管理責任者」という。）を置き、メディカルITセンター長をもって充てる。

(診療録等の保存)

第8 診療録等の保存期間は、次のとおりとする。

- 一 外来診療録、入院診療録等 受診した診療科の最終受診日から5年間
- 二 診療録等をマイクロフィルム化及び電子化したもの 永久

2 診療録等の保管方法及び保存期間を経過した診療録の取扱いについては別に定める。

(診療録等の閲覧及び貸出)

第9 診療録等は、原則として診療、教育・研究、公法上の規定及び医事調査等による目的以外は

閲覧等を許可しないものとする。

- 2 診療録等の閲覧等及び検索に係る遵守事項については、別に定める。
- 3 診療に必要な外来診療録、入院診療録等は各診療科の依頼に応じ、病歴管理部門が迅速に提供する。

(診療録等の閲覧等の資格)

第10 診療録等の閲覧等ができる者は、次の者とする。

- 一 病院等に所属し、診療に従事している医師及び歯科医師
 - 二 診療従事者として病院長の承認を得た医師及び歯科医師
 - 三 前各号に掲げる者のほか、病院長又は管理責任者が許可した者
- 2 法令等の定めにより、診療録等の提出を必要とする場合の閲覧等については、別に定める。

(診療録等の閲覧等の申請及び許可)

第11 病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を希望する者は、病歴管理部門が管理する「診療録等閲覧・貸出申込書」(以下「申込書」という。)を病歴管理部門に提出し、許可を得るものとする。

- 2 病歴管理部門は、前項の申込書を受理した場合は、閲覧等の資格及び利用目的を確認し、適当であると判断した場合に閲覧等を許可するものとする。
- 3 閲覧は病歴管理部門閲覧室で行うこととし、貸出は病院等の範囲内とする。

(X線フィルムの院外貸出)

第12 前条第3項の規定にかかわらずX線フィルムの院外貸出については、次に掲げる要件を満たす場合に許可することができるものとする。

- 一 都道府県及び市町村の条例等により、公費負担医療受給申請書等にX線フィルムの添付が求められている場合の患者(患者が未成年の場合の保護者を含む。以下「患者等」という。)への貸出
 - 二 労災認定等の資料としてX線フィルムの提出が求められている場合の労働基準監督署への貸出
 - 三 診療上の必要事由による他の医療機関への貸出
- 2 X線フィルムの患者等への貸出の判断は、当該患者が受診している診療科の主治医が行うものとし、主治医が退職している場合にあつては、当該診療科長が判断する。

(診療録等の閲覧等の期間)

第13 診療録等の閲覧等の期間は14日間とする。ただし、再入院患者の前回入院診療録等は退院日までとする。

- 2 X線フィルムの院外貸出期間は、前項の規定にかかわらず原則として次のとおりとする。
 - 一 公費負担医療受給申請及び労災に係るもの 1月以内
 - 二 その他のもの 2週間以内
- 3 閲覧等の期間終了後もなお閲覧等の必要がある場合は、病歴管理部門の許可を得るものとし、継続できる閲覧等の期間は、前回の閲覧等期間満了日から14日以内とする。
- 4 閲覧等の期間内であっても、診療上、当該診療録等が緊急に必要となった場合は、直ちに返却するものとする。
- 5 病歴管理部門が管理する診療録等は、病歴管理部門内の所定の場所に返却するものとする。

(時間外及び休日等の閲覧等)

第 14 土曜日，日曜日，祝祭日及び 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日における病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等については，あらかじめ許可を得ているものを除き，診療上，当該患者の診療録等が緊急に必要な場合にのみ許可する。

2 前項により病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を行う者は，当該診療録等の所在確認のため，申込書に必要事項を記載して所定の整理箱に投函しておくものとする。

3 前項により病歴管理部門が管理する診療録等の閲覧等を行う場合は，閲覧等を行う者が警務員室から病歴管理部門の鍵の貸出を受けて入室し，退出時は消灯，施錠等の確認を行い，貸出を受けた鍵は退出後速やかに警務員室に返却するものとする。

(雑則)

第 15 この要項の実施に関し必要な事項は，名古屋大学医学部附属病院病歴管理委員会の議を経て病院長が定める。

附 則

この要項は，平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は，平成 22 年 3 月 10 日から実施する。

附 則

この要項は，平成 24 年 4 月 11 日から実施し，平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は，平成 28 年 9 月 14 日から実施する。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	総務課長 安田浩明		
閲覧担当者氏名	総務課病院事務係長 水野克彦		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要 病院の管理及び運営に関する諸記録は、公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、保有する法人文書ファイルとして、名称、保存期間、文書管理者、保存場所、その他の事項を記載した法人文書ファイル管理簿を作成し、一般の閲覧に供するとともに、公表しています。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 安全管理に関する基本的な考え方・ 組織に関する基本的事項・ 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針・ 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 医療システムの質改善・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針・ 患者との間の情報の共有に関する基本方針・ 患者からの相談等への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有)・ 開催状況：年 15 回・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療事故発生の防止に努め、かつ、発生した医療事故への適切な対応及び病院全体の医療の質向上を積極的に図る。 <p>これらの活動のために次の事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療事故の防止及び医療安全推進に関する事項・ 医療上の紛争処理に関する事項・ 医療の質向上に関する事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 30 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 全職員、外注業者を対象として、「世界基準の安全な医療を目指して—JCI 受審への進捗とこれから／当院における患者誤認と予防策」「群大事例と JCI に学ぶインフォームド・コンセント」「当院における患者確認の手順「適切な情報の取り扱いについて」等をテーマとした研修を実施・ TeamSTEPS 研修を計 10 回実施し、約 500 名が受講した・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に医療安全ポケットマニュアルの内容について研修を実施・ 平成 28 年度からは、各種会議で医療の質・安全管理部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するために、簡易なテストを実施し、解説を行っている。	
※上記実施状況は会場にて実施した回数(DVD貸出及びeラーニング受講は除く)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 各部門とのインシデント検討会にて報告事例を審議し、改善に結びつける。(47回開催)・ 重大事故に関しては外部委員主導の事故調査委員会などを開催し、そこで得られた分析結果や提言を踏まえ、再発防止に結びつける。(2回開催)・ 他職種が関連した事例等については、カンファレンス形式による検討会を開催し、改善に活かしている。(1回開催)・ Structure、Process、Measure、Education、Assessmentの5グループから成る病院質向上推進本部を設置し、業務の質改善に取り組む。(19回開催)・ インシデント報告総件数(10834件)	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・ 院内感染対策のための委員会と組織・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する事項・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針・ 病院感染リスクアセスメントに基づいた感染対策の立案	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染の防止に努めるとともに、発生した感染事例について適切な対応を図る。 これらの活動のため、次の事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染の予防及び対策等に関する事項・ 患者の取扱いに関する事項・ 医療従事者への感染予防に関する事項・ 感染症診療支援及び抗菌薬適正使用に関する事項・ その他院内感染対策及び感染症診療支援に関する事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全職員、清掃業者従事者及び廃棄物運搬・収集業務従事者を対象として、「院内感染対策について」「院内感染対策マニュアル（第9版）改訂のポイント／標準予防策／JCI受審と感染対策」「感染対策を見直そう」等をテーマとした研修を実施・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に「針刺し・血液体液曝露」などをテーマとした研修を実施 <p>※上記実施状況は会場にて実施した回数（DVD貸出及びeラーニング受講は除く）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全病棟と外来、部門を対象に感染対策の知識、手指衛生などの感染対策の実施状況、環境整備のチェックを中心としたICTラウンドの実施・ MRSA新規検出症例数の独自介入基準を設け、基準に合致した部署に対して手指衛生観察巡回などを実施し、感染対策の強化を図っている・ NICU、MICUとの定期的なミーティング・ 抗菌薬適正使用の推進を目的とした薬剤部とのミーティング・ 診療科横断的な感染症症例コンサルテーションと血液培養陽性例への介入・ 4職種の実務的メンバーによるICTコアミーティングを週1回行い、全病院的に感染対策が漏れなく実施されるよう検討・管理している	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 全職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修（麻薬の適正な管理について）を実施した。・ 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床工学士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を対象とした医薬品の安全使用に係る研修（内用・外用麻薬の取り扱いについて）を実施した。・ 新任看護師を対象とした研修（薬剤管理①、薬剤管理②）を実施した。・ 研修医を対象とした研修（薬剤安全プログラム・麻薬の取り扱いについて）を実施した。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容： <p>医薬品の採用・購入に関する事項、医薬品の管理に関する事項、患者に対する投薬指示から調剤に関する事項、患者に対する与薬や服薬指導に関する事項、医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項、危険薬の取り扱い、他施設との連携に関する事項、適応外、禁忌等の処方に係る確認および指導に関する事項、医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の遂行に関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none">・ 院内で収集されたインシデント報告等から業務またはマニュアルを見直している。・ 薬剤部のクオリティー&セーフティマネジャーおよび病棟担当薬剤師が、診療科（部）、病棟、中央診療施設などにおいて、医療の質・安全管理部と連携して、各部署内における医薬品の安全管理に関する指導を行っている。・ 医薬品に係る適正使用に関する情報や副作用情報を薬事委員会や医療の質向上と安全推進委員会等で報告している。・ 必要に応じて薬品情報室から安全使用のための情報を文書にて各病棟、外来診療科、その他の部署に配布するとともにメールにて配信している。さらに、電子カルテのDI参照のお知らせ画面、薬剤部ウェブサイトにも安全使用のための情報を掲載し職員への周知徹底に努めている。・ 重要度の高い情報については、電子カルテのトップページや院内広報：薬剤部ページにも掲載している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	随時
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>・人工呼吸器・除細動器など特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる機器に関して、医療機器・材料安全管理室が年2回実施。</p> <p>・放射線部門にて直線加速器と放射線照射装置に関する年2回の定期研修を実施。</p> <p>・その他の医療機器についても各部署にて適宜勉強会を実施。 (随時実施)</p> <p>・新卒者のオリエンテーションにて、医療機器の安全使用のための研修を実施。</p> <p>・研修医や看護師を対象に臨床工学技士による勉強会の実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>・医療機器・材料安全管理室にて医療機器の管理を医療機器管理ソフトにて行っており、購入日・使用場所・保守点検状況等の管理を行っている。</p> <p>・臨床工学技士が生命維持管理装置(人工心肺・血液浄化・不整脈・心臓カテーテル・OPE・ICU関連)の操作・保守点検・管理を行っている。</p> <p>・院内で中央管理する機器の定期点検は電気安全解析装置などのシミュレーターを用いて実施している。また交換パーツについてはメーカー講習会を受講したものについては、供給を受けて院内で行っている。</p> <p>・ダウインチやX線撮影装置など保守契約を結んでいるものについては、機器の空き状況を確認し実施している。</p> <p>・手術室に常駐して医療機器の日常点検や不具合発生時の対応などを行う、医療機器保守管理業務契約を締結している。</p> <p>・その他医療機器についても、必要に応じ定期点検等の保守契約を結んでいる。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDAやメーカー、納入業者からの報告を受理し、MLCEニュースやMDI通知メール、電子カルテに掲載するなど電子媒体を利用して関連部署での情報共有を実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格： (医師)・ 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者を配置しており、医療の質・安全管理部長、医療の質向上と安全推進委員会委員長を務め、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (14名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報は、整理した上で薬事委員会月例報告として月 1 回院内へ周知している。周知状況の確認は、各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行っている。また、各診療科の周知状況は薬事委員会にて報告している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>(適応外)</p> <p>適応外については、薬品情報室が治験審査委員会 (前年度) で承認した適応外使用医薬品を「適応外投与 (承認) 一覧」として部内に配信し情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、治験審査委員会 (前年度) への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。</p> <p>(禁忌)</p> <p>禁忌処方をチェックするシステムは、薬剤部門システム上にあり処方せんの下部にアラートが印字される。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。</p> <p>(未承認薬)</p> <p>未承認薬は治験審査委員会 (前年度) へ申請し承認を得た上で使用されている。また、不特定多数を対象とする申請や院内製剤については、年度末に実施状況を報告している。さらに、必要に応じて副作用報告や個別の経過報告を行っている。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、未承認薬を審査している治験審査委員会を基礎にして体制の見直しを行い、「名古屋大学医学部附属病院未承認新規</p>	

医薬品取扱要項」および「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品等評価委員会に関する要項」を制定した。

・担当者の指名の有無 有・無

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部, 職種 薬剤師) (所属： , 職種)

(所属： , 職種) (所属： , 職種)

(所属： , 職種) (所属： , 職種)

(所属： , 職種) (所属： , 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 有・無

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
目的、方針、適応範囲、定義、役割と責任、遵守と監視、手順、説明と同意の種類、説明と同意の確認のプロセス、説明・同意書の文書様式、説明及び同意に関し問題が起こった場合、等

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療録内部監査要項に定められている記載項目について確認を行い、その結果を病歴管理委員会で報告している。また、十分でない事例が認められる場合は、当該医師へ必要な指導を行うとともに、各部署に通知等をして診療録等の精度向上に努めている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 有・無

・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（6）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（3）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

・治療中の不測のトラブル等に対し、病院全体で対応できる治療体制の構築

・全部門からのインシデント情報の集積と分析、事故予防策の検討

- ・医療事故等に対する第三者による客観的事例調査、原因究明と再発防止策の指導
- ・院内の各種安全マニュアル、標準対応指針などの策定、各部門との連携
- ・院内研修、学生教育による安全意識の高い医療者の育成と、安全文化の醸成
- ・品質管理の手法を導入した業務の質向上とアウトカム評価

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無 ）

※平成 29 年 4 月 1 日付けで、高難度新規医療技術取扱要項を制定した。

※平成 28 年度時点で、高難度新規医療技術の提供の適否等を決定するための手術手技専門審査委員会を設置している。

また、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定するために確認すべき事項等を定めた規程を作成し、その規程をもとに委員会が適否等を決定している。

・活動の主な内容：

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無 ）
- ・活動の主な内容：

（平成 29 年 3 月までは治験審査委員会： IRB にて未承認薬・適応外使用申請（医薬品・医療機器）について審査を行っており、その内容を記載した。）

診療科の申請者は申請書類を IRB 事務局に提出する。IRB 事務局の薬剤師は申請書類（申請書、説明文書、同意書、患者の選択除外基準（不特定多数対象の場合））の内容に関して引用論文等を確認し、疑

義等について申請者に回答の依頼をする。その後、IRBにてIRB委員が申請内容を審査する。委員から指摘事項等あれば申請者はその場で回答をする。

特定患者対象の申請は、審議中に必要と決定された場合申請者に経過報告書の提出を依頼する。また、不特定多数対象の申請は、実施責任医師に一年に一度、実施状況報告書の提出を依頼する。IRB事務局の薬剤師は、使用症例数、同意書の取得、有用性、副作用について確認を行う。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無) (平成 29 年 4 月より設置)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 1 回
- ・ 活動の主な内容：
 - 以下に掲げる事項を監査する。
 - ・ 医療安全管理に係る体制
 - ・ 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況
 - ・ 医療の質・安全管理部の業務の状況
 - ・ 医療の質向上と安全推進委員会の業務の状況
 - ・ その他医療安全管理に関して必要な事項
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 無)
- ・ 委員名簿の公表の有無 (有 無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法：
 - 本院ホームページ上に公開。

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会 会長	○	愛知県医師会会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
三島 信彦	名古屋逓信病		名古屋逓信病院	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1

	院 病院長		長を務めており、医療安全に精通しているため。		
長谷川 ふうき子	成田・長谷川法律事務所 弁護士		医療安全管理を得意とする弁護士であり、法律に関する高い識見を有しているため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
広瀬 茂	全国健康保険協会 愛知支部 支部長		全国健康保険協会愛知支部長を務めており、医療を受ける者として、医療に係る高い見識を有しているため。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2
市橋 克哉	名古屋大学 理事		総長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> 有 無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

- ・ TeamSTEPS研修を計10回実施し、約500名が受講した
- ・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に医療安全ポケットマニュアルの内容について研修を実施
- ・ 平成28年度からは、各種会議で医療の質・安全管理部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するために、簡易なテストを実施し、解説を行っている。

※上記実施状況は会場にて実施した回数（DVD貸出及びeラーニング受講は除く）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

※平成 28 年度は検討中である。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>公益財団法人 日本生産性本部 日本版医療MB賞クオリティクラブ (JHQC)</p> <p>平成28年7月19日から平成31年7月31日までです。</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1. 附属病院における臨床研究成果を①名古屋教育記者会会員15社へFax、記者会見を通じて、プレスリリースを行い、②医学系研究科ホームページに研究トピックスとして掲載し、広く学外</p> <p>・院外に向けて情報発信している。</p> <p>2. 診療内容・医療サービスや診療実績等の医療情報について、附属病院ホームページにおいて公開している。</p> <p>3. 患者や地域向けに広報誌を作成し、広く頒布している。また、一般市民を対象とした公開講座を毎年度開催し、地域市民に向けた教育・啓発活動にも取り組んでいる。</p>	

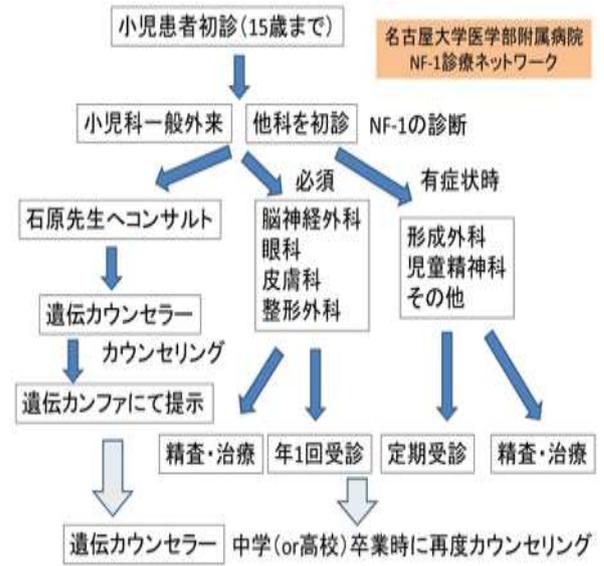
3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ア. 補助人工心臓を用いた重症心不全治療：心臓移植治療、心臓外科、循環器内科、ICU、麻酔科、精神科の診療科の他に、看護師、臨床工学技士、理学療法士（心臓リハビリ）、臨床心理士、栄養管理部、薬剤部が合同して患者管理を行っている。植込型補助人工心臓治療は心臓移植適応患者を対象とするため、多職種カンファレンスで適応を審査し、補助人工心臓移植から在宅管理、将来的な心臓移植までのシームレスな重症心不全治療を多職種で行っている。</p> <p>イ. 肝臓移植はチーム医療で行っている。（図1）</p> <p>ウ. 神経線維腫症1型患者に対して、15歳までと15歳以降に分け、それぞれ基本的に診療を担当する科を決め、他は症状に合わせて診療科を決めるシステムを構築した。15歳までの診療システムを示す。（図2）</p> <p>エ. 肉腫患者に対するサルコーマボード：整形外科、化学療法部、放射線科、緩和ケア科、外科、泌尿器科などが参加して、肉腫患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している</p> <p>オ. 大動脈疾患における人工血管治療とステント治療の同時ハイブリッド手術…心臓外科と血管外科が合同して手術を行っている。</p> <p>カ. 閉塞性動脈硬化症、血管炎、バージャー病による四肢虚血に対する血管新生療法：循環器内科と血管外科が合同で適応検討、諸検査、治療を行っている。</p> <p>キ. NST、褥瘡対策チーム、RSTなど、複数診療科の医師と看護師、およびコメディカルからなる専門チームを整備し、定期回診や職員に対する教育活動を行っている</p>	

図 1



図 2



(様式第 8)

名大医総第117号
平成29年10月3日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人名古屋大学
総長 松尾 清一(印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

公益財団法人日本医療機能評価機構が開催する、平成29年度特定機能病院管理者研修について、本院の管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者が受講予定である。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（6）名
うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（3）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

既に配置している。